

松浦川水系の流域及び河川の概要 (案)

平成18年2月7日

国土交通省 河川局

【目 次】

第1章 流域の自然状況	1
1－1 流域及び河川の概要	1
1－2 地形	2
1－3 地質	4
1－4 気候・気象	5
第2章 流域及び河川の自然環境	6
2－1 流域の自然環境	6
2－2 河川及びその周辺の自然環境	8
2－3 特徴的な河川景観や文化財等	21
2－4 自然公園等の指定状況	33
第3章 流域の社会状況	36
3－1 土地利用	36
3－2 人口	38
3－3 産業経済	39
3－4 交通	40
第4章 水害と治水事業の沿革	41
4－1 既往洪水の概要	41
4－2 治水事業の沿革	45
第5章 水利用の現状	49
5－1 水利用の現状	49
5－2 渇水被害の概要	51
第6章 河川流況と水質	54
6－1 河川流況	54
6－2 河川水質	55
第7章 河川空間の利用状況	57
7－1 河川の利用状況	57
第8章 河道特性	61
8－1 上流部の河道特性	62
8－2 中上流部の河道特性	63
8－3 中流部の河道特性	64
8－4 下流部の河道特性	65
8－5 河口部の河道特性	66
8－6 徳須恵川の河道特性	67
8－7 巖木川の河道特性	68
第9章 河川管理の現状	69
9－1 河川管理区域	70

9-2	河川管理施設	71
9-3	水防体制	74
9-4	危機管理の取り組み	75
第10章	地域との連携	78
10-1	地域連携を巡る動き	78
10-2	地域連携における現在の取り組み	78
10-3	地域連携における今後の取り組み	79

第1章 流域の自然状況

1-1 流域及び河川の概要

松浦川は、その源を佐賀県杵島郡山内町青螺山（標高 599m）に発し、鳥海川等の支川を合わせながら北流し、唐津市相知町で厳木川を合わせ、下流平野部に出て徳須恵川を合わせ、その後は唐津市中心市街部を貫流し、玄界灘に注ぐ、幹川流路延長 47km、流域面積 446km² の一級河川である。

その流域は、佐賀県北西部に位置し、唐津市をはじめ、伊万里市、武雄市、山内町の 3 市 1 町からなり、流域の土地利用は、山地等が約 84%、水田や畑地等の農地が約 15%、宅地等の市街地が約 1%となっている。

流域内には流域内人口の約 5 割が集中する唐津市があり、沿川には、JR 筑肥線、唐津線、国道 202 号、203 号等の基幹交通施設に加え、西九州自動車道が整備中であり交通の要衝となるなど、この地域における社会・経済・文化の基盤を成すとともに、松浦川の豊かな自然環境に恵まれていることから、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。



図 1- 1 松浦川水系流域図

1-2 地形

松浦川流域は、脊振山地や丘陵地に囲まれ、河口部が虹の松原を有する玄海国定公園に指定されているほか、黒髪山県立自然公園等がある。松浦川は標高が約 400～500m の山地を源流としており、河床勾配は約 1/500～1/10,000 と比較的緩勾配である。一方、厳木川は、作礼山（標高 887m）、八幡岳（標高 764m）と比較的高い山地を抱えており、河床勾配は約 1/50～1/500 と急勾配になっている。



図 1- 2 松浦川地形図

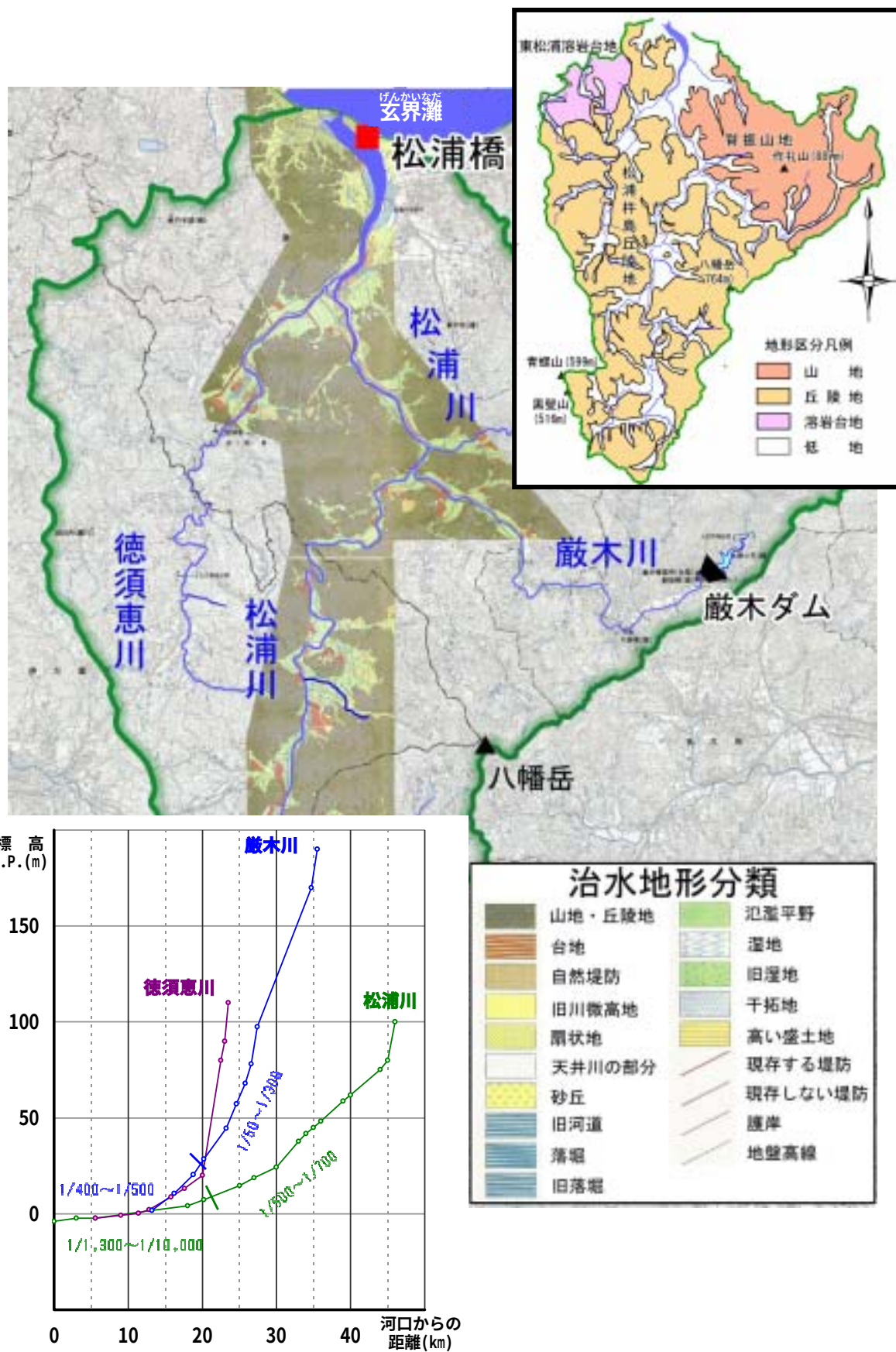


図 1- 3 松浦川流域の地形分類図

1-3 地質

松浦川上流域から、徳須恵川上流域の大部分は古第三紀層に属しており、岩石は、左岸・頁岩が主でまれに凝灰岩・礫岩が見られる。岩層は一般にやわらかく、侵食も早く進み、丸みをもった低い丘陵地になっている。

松浦川下流域の山地および厳木川流域は、中生代の生成ともいえる東松浦花崗岩が大部分を占める。



図 1- 4 松浦川流域地質図

1-4 気候・気象

松浦川流域は、日本海沿岸に面しており、気候は日本海型気候区に大別される。年平均気温は16℃であり、全般に温和な気候である。

月別降水量は梅雨期にあたる6月から7月に多い。上中下流域の降水量を比較すると、各月ほぼ同じであるが、6月は上流域で多い傾向にある。

年間降水量は、上流域 2,200mm、中下流域 1,700～1,900mm になる。また、流域内の年平均降水量は約 2,100mm であり、全国平均に対して約 1.2 倍である。

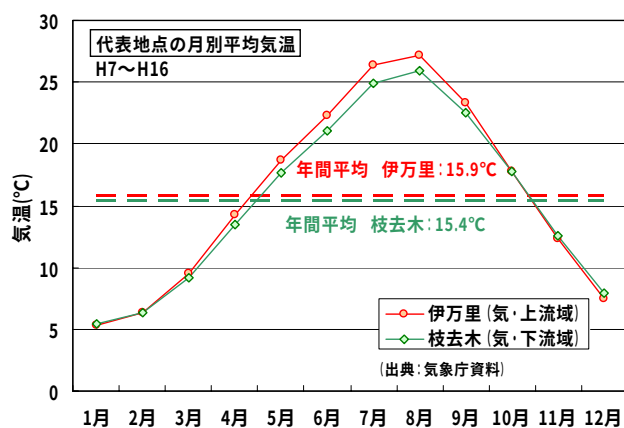


図 1- 5 代表地点の月別平均気温

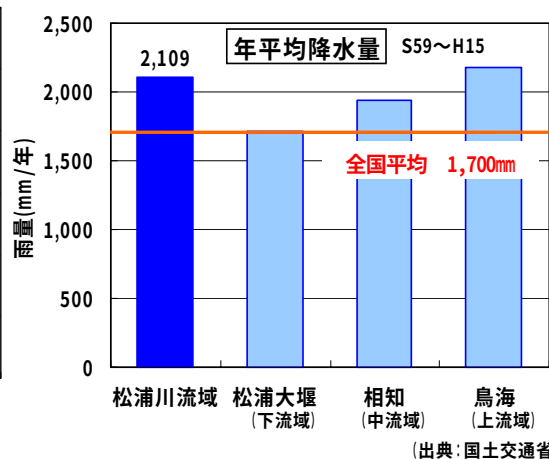


図 1- 6 年平均降水量の比較

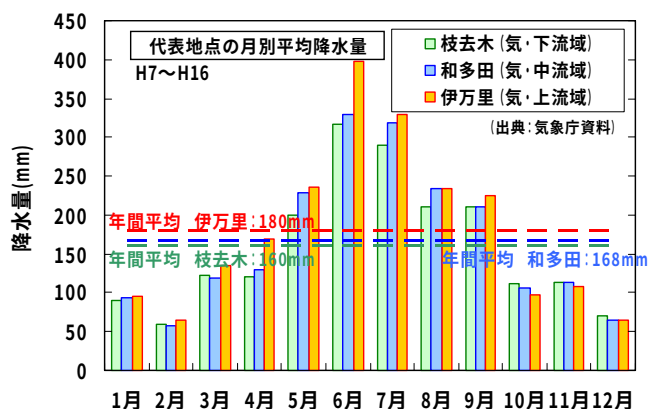


図 1- 7 代表地点の月別平均降水量

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

自然公園に囲まれた豊かな自然環境

松浦川流域は、佐賀県北西部に位置し、「黒髪山県立自然公園」「八幡岳県立自然公園」「天山県立自然公園」に囲まれ、アカマツ林や常緑針葉樹植林が広く分布しており、田園風景と調和した豊かな自然環境を有している。

黒髪山は全国的に有名な植物の山として知られ、クロカミラン(絶滅危惧種)・ヤツガシラ・ヒレフリカラムツ(絶滅危惧種)・クロカミシライトソウなどの全国的にも珍しい固有種が多く自生している。

また黒髪山は、シダ植物が豊富で、ヒノキシダ・コガネシダなど約70種のシダ植物が自生している。特に、カネコシダは黒髪山が原産地であり、国指定天然記念物に指定されている。

松浦川河口は、玄界灘に臨む福岡、佐賀、長崎三県の海岸線を区域にした玄海国定公園を有しており、白砂青松の海岸線が続いている。

虹の松原は、日本三大松原のひとつで国指定特別景勝地に指定されている。主な樹種はクロマツである。

クロマツ林から海岸までは海浜植物群落の宝庫であり、ハマエンドウ・ハマダイコン・ハマニガナ・ハマボウフウ・ハマゴウ・ハマヒルガオといった「浜」がつく砂丘植物が砂浜を覆う。

2-2 河川及びその周辺の自然環境

(1) 全国的に絶滅の危機にある生物が多く生息する川

環境庁や佐賀県では絶滅の危機に瀕している生物をレッドデータブック・レッドリストとしてとりまとめ、保護のための基礎資料としている。

松浦川水系には、水の澄んだ清流に生息するスナヤツメ、アリアケギバチ、オヤニラミ、メダカ、など4種の魚類の生息が確認されているほか、底生生物4種、両生類2種、ほ乳類1種、陸上昆虫6種、鳥類15種、植物22種、など多くの絶滅危惧種が確認されている。

【スナヤツメ】 (ヤツメギ目ヤツメギ科)



- ・環境庁：絶滅危惧Ⅱ類
- ・佐賀県：準絶滅危惧種

九州南部を除く全国に広く分布する。幼生、成魚ともに、昼間は、河川中流域や細流などの流れの緩やかな、湧き水のある砂泥底に潜っている。夜行性。産卵は4月で平瀬や淵尻の礫底にすり鉢状のくぼみを作っておこなわれる。餌は泥に含まれる有機物や微小藻類である。

(出典：レッドデータブックさが)
(写真：日本の淡水魚,山と溪谷社)

【アリアケギバチ】 (ナズ目ギギ科)



- ・環境庁：準絶滅危惧
- ・佐賀県：絶滅危惧Ⅱ類種

水のきれいな早瀬から早瀬尻の大石の下などに潜み、夜間や雨後の濁りに乗じて水生昆虫や甲殻類、小魚などを捕食する。産卵期は6~8月で、石の下面や植物帯の根本などの暗がりに2.3mmの寒天質で包まれた黄色の卵をかためて産みつける。卵は3~4日でふ化する。

(出典：レッドデータブックさが)
(写真：くまもと自然大百科)

【オヤニラミ】 (ズギ目ズギ科)



- ・環境庁：準絶滅危惧
- ・佐賀県：絶滅危惧Ⅱ類種

河川中流域の水のきれいな、緩やかな流れの石の間や岸辺の植物の根元に単独で定位することが多い。節足動物や小魚など動くものしか食べない。産卵期は4月中旬から夏にかけてで、ヨシなどの植物の沈水部分に卵を定着させ、雄が保護する。

(出典：レッドデータブックさが)
(写真：川の生物図典,山海堂)

【メダカ】 (ダツ目メダカ科)



- ・環境庁：絶滅危惧Ⅱ類
- ・佐賀県：準絶滅危惧種

水田脇の小溝や浅瀬、水深のあるクリークでは岸辺の抽水植物帯に群れて生活する止水生の魚である。卵には長い粘着糸があり、メスは受精してもしばらくは腹部に卵を付着したまま泳ぎ回り、水草などにばらばらに卵を付着させていく。

(出典：レッドデータブックさが)
(写真：日本の淡水魚,山と溪谷社)

(2) 変化に富んだ河川環境

松浦川の河道は蛇行が激しく、瀬と淵が連続しており、変化に富んだ地形が成す河川環境を有する。

【厳木川 10k0 付近の蛇行状況】



(出典：武雄河川事務所)

【徳須恵川 12k0 付近の蛇行状況】



(出典：武雄河川事務所)

2-2-1 河川の環境特性

松浦川流域を河口域（干潮区間）、中下流域、中上流域、上流域、徳須恵川流域、厳木川流域に区分し、各区分の河川の環境特性について示す。

（1）松浦川河口域（干潮区間）の環境【河口～松浦大堰（3k000 付近）】

松浦川の河口域は全域が汽水域で広大な水面を有し、カモ類、カモメ類の休息の場となっている。干潮時には広大な砂質干潟が出現し、ハクセンシオマネキやマゴコロガイ等の希少な生物が生息している。

高水敷は狭く、河道内の樹木はほとんど存在しないが、水際部にはシオクグやウラギク等の塩生植物が小面積ながら存在する。

【松浦川河口部】



（出典：武雄河川事務所）

【広大な砂質干潟】



（出典：武雄河川事務所）

【ハクセンシオマネキ】（十脚目サガニ科）



- ・環境庁：準絶滅危惧
- ・佐賀県：準絶滅危惧種

生息域は、内湾の奥や河口域の泥質干潟であり、高潮線付近の大潮でないと冠水しないような場所を好む。雄の鉗脚は片方が大きく、雌は両方とも小さい、甲幅 35mm 前後の小型のカニである。

（出典：レッドデータブックさが）
（写真：武雄河川事務所）

【ウラギク】（キ科）



海岸や河口などの、潮の干満によってたえず塩水をかぶるような湿地に群生する越年草。高さ 30～60cm になる。葉は細く、やや厚くてつやがある。頭花は径 2cm ほどで、茎の上部で枝を分けて円錐状に多数つく。

（出典：日本の野草、山と溪谷社）

(2) 松浦川中下流域【松浦大堰～19k0 付近】

松浦大堰から 11k0 付近間の湛水域は、高水敷は狭く、堤防法面には外来種であるセイタカアワダチソウ等が優先し、河道内樹木はわずかに存在するのみである。また、水際にはツルヨシやヤナギタデ等の湿性植物群落も存在する。

12k2 伊岐佐川との合流点付近には、水系最大の砂礫河原が存在し、コチドリやイカルチドリの休息の場となっている。また厳木川合流部より下流（11k6～13k2）は、松浦川水系で貴重なアユの産卵場が確認されている。

河岸は部分的に山付きの樹木群が存在し、河道内にはところどころでツルヨシ群落が中洲や寄洲を発達させつつあるが、区間内の河岸のほとんどがコンクリート護岸である。

【松浦川荒瀬橋付近（11k 付近）】



(出典：武雄河川事務所)

【松浦川水系最大の砂礫河原】



(出典：武雄河川事務所)

【イカルチドリ】（ヰリ目ヰリ科）



主として栗石と砂利の多い河原で繁殖し、特に中流域の氾濫原の礫の多いところを好む。砂や土の多い埋め立て地では繁殖しない。全長は約 21cm、翼を広げた大きさは約 41cm。ムクドリくらいの大きさで、主に昆虫などの動物質を餌とする。

(出典：川の生物図典,山海堂)

【アユ】（サ目ア科）



仔魚は海に降った当初は沿岸域に広く分布し、昼は低層に、夜は表層に生息する。春になり遡上期が近づくと岸寄りに分布する。河川に遡上したアユは、中流から上流域の大石や岩盤のある瀬に縄張りを形成して定着する。縄張りは平瀬や早瀬および淵の一部に形成する。

(出典：川の生物図典,山海堂)

(3) 松浦川中上流域の環境【松浦川 19k0~31k4 付近】

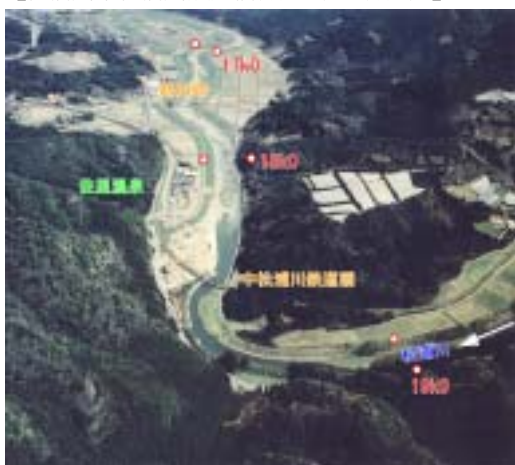
周辺の低山に囲まれたやや開けた平地であり、そのほとんどが農地として利用されている。河川幅はやや狭く、河床に岩盤が露出する区間があり、早瀬や平瀬が出現する。

メダケやマダケ等の河畔林が多く見られ、山付きの樹木群も点在するが、高水敷はほとんど存在せず、また、河道内にはコンクリート護岸が随所に見られる。

山間部では、ヤマセミやカワセミが見られる。

桃の川地区（親水公園）ではゲンジボタルが確認されており、良好な河川環境を有している。この地区では、ホタル観察会や水生生物調査等の日常の利用が盛んであり、ボランティアによる清掃活動もおこなわれている。

【松浦川中松浦川鉄道橋付近（19k 付近）】



(出典：武雄河川事務所)

【桃の川親水公園（28k6 付近）】



(出典：武雄河川事務所)

【ヤマセミ】（ブッポウウミカゼミ科）



・佐賀県：絶滅危惧Ⅰ類

山地の溪流や湖沼に生息し、巣は土質の崖に横穴を掘ってつくる。岸から 1km 以上離れた崖もよく利用する。川魚、カエル、サワガニ、昆虫などを捕食する。

(写真：原色日本野鳥生態図鑑,保育社)

【ゲンジボタル】（ブッポウウミカゼミ科）



・佐賀県：絶滅危惧Ⅰ類

幼虫の生息場所は流水中、成虫はその岸辺などである。成虫は昼間は樹木や草などに潜んでいるが、日没後にゆっくりと飛びながら発行する。幼虫は陸に上がって、安定した良い環境を選んだ後、土に潜り、部屋を作りふ化する。

(出典：川の生物図典,山海堂)
(写真：原色日本甲虫図鑑,保育社)

(4) 松浦川上流域の環境【指定区間】

松浦川上流域は、3箇所の県立自然公園に指定されており、広範囲にわたって豊かな自然環境を形成している。上流域では、クロカミシライトソウなどの貴重種やカネコシダなど天然記念物が存在する。

【黒髪山（県立自然公園）】



(出典：武雄河川事務所)

【八幡岳（県立自然公園）】



(出典：佐賀県 HP)

【カネコシダ】（ウラボシ科）



- ・環境庁：絶滅危惧ⅠB類
- ・佐賀県：絶滅危惧Ⅱ類種

九州の山地に、ウラボシと混じって生えている。葉の裏が白くなく、小葉が尖っているのでウラボシと区別できる。明治37年頃、黒髪山で発見されたシダで発見した人の名を付けられている。昭和2年に、生えているこの場所に限り、天然記念物に指定された。

(出典：レッドデータブックさが普及版)

【クロカミシライトソウ】（ツル科）



- ・環境庁：絶滅危惧ⅠA類
- ・佐賀県：絶滅危惧Ⅰ類種

全国では佐賀県だけであって、岩の多い林の中や湿った岩の上に生えている。白くて細い花びらをもっている。名の由来は、発見された黒髪山にちなむ。

(出典：レッドデータブックさが普及版)

(5) 徳須恵川流域の環境【0k0～14k4 付近】

下流 6k0 付近までは松浦大堰の湛水区間であり、ほぼ全区間において築堤及び低水護岸が整備されている。

松浦川との合流点に残る旧川地区は、松浦大堰の湛水影響を受け、ヨシやマコモ、メダケ等からなる止水性の湿地となっている。またメダケ林はサギ類の集団ねぐらとなっている。

徳須恵川の中上流域は、低山に囲まれた区間で、河道内はツルヨシが繁茂する。

山付きの樹木群や河岸にはメダケ林が発達し、魚食性のカワセミやヤマセミが多く確認されている。

【松浦川合流点旧川地区付近】



(出典：武雄河川事務所)

【徳須恵川 12k0 付近】



(出典：武雄河川事務所)

【カワセミ】（フッポウ目カササギ科）



標高 900m くらいまでの河川・湖沼・小川・用水などの水辺に生息し、水辺の土の崖に巣穴を掘る。川魚を主として捕食するが、ザリガニ、エビ、カエルなども食べる。

(写真：日本の野鳥,山と溪谷社)

(出典：原色日本野鳥生態図鑑,保育社)

(6) 厳木川流域の環境【0k0～14k6 付近】

取水堰が多く存在するが、オヤニラミやアリアケギバチが生息する良好な溪流環境が形成されている。また、河岸の大半はツルヨシ群落で、メダケ・マダケが点在しており、山付きの樹木群も見られる。

【厳木川横枕堰付近】



(出典：武雄河川事務所)

【厳木川 10k0 付近】



(出典：武雄河川事務所)

【オヤニラミ】 (スズキ目スズキ科)



- ・環境庁：準絶滅危惧
- ・佐賀県：絶滅危惧Ⅱ類種

河川中流域の水のきれいな、緩やかな流れの石の間や岸辺の植物の根元に単独で定位することが多い。節足動物や小魚など動くものしか食べない。産卵期は4月中旬から夏にかけてで、ヨシなどの植物の沈水部分に卵を定着させ、雄が保護する。

(出典：レッドデータブックさが)
(写真：川の生物図典,山海堂)

【アリアケギバチ】 (ナマズ目ギギ科)



- ・環境庁：準絶滅危惧
- ・佐賀県：絶滅危惧Ⅱ類種

水のきれいな早瀬から早瀬尻の大石の下などに潜み、夜間や雨後の濁りに乗じて水生昆虫や甲殻類、小魚などを捕食する。産卵期は6～8月で、石の下面や植物帯の根本などの暗がりには2.3mmの寒天質で包まれた黄色の卵をかためて産みつける。卵は3～4日でふ化する。

(出典：レッドデータブックさが)
(写真：くまもと自然大百科)

2-2-2 松浦川における特定種

(1) 注目すべき生物

松浦川水系の生物の特徴を適切に把握するため、以下の観点より、整理対象の種を「注目種」として選定した。

- ① 希少性から重要と考えられる生物種【環境庁 RDB, 佐賀県 RDB】
- ② 良好な自然環境を代表していると考えられる種【自然環境保全基礎調査】
- ③ 松浦川水系生態系の特徴を表すと考えられる種【生態系】

河川水辺の国勢調査およびその他の生物調査から、松浦川水系生育・生息が確認された種を対象に選定した結果、魚類 10 種、底生動物 15 種、両生類 2 種、ほ乳類 1 種、陸上昆虫類 13 種、鳥類 20 種、植物 26 種の合計 87 種を抽出した。

表 2- 1 注目すべき生物の選定基準

文献	凡例等
環境庁RDB 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』の国内希少野生動植物種及び『レッドリスト』（環境庁）の記載種	「絶滅」 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 「野生絶滅」 飼育・栽培下でのみ存続している種 「絶滅危惧ⅠA類」 ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い 「絶滅危惧ⅠB類」 ⅠAほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い 「絶滅危惧Ⅱ類」 絶滅の危険が増大している種 「準絶滅危惧」 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 「情報不足」 評価するだけの情報が不足している種 「絶滅のおそれのある地域個体群」 地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群
佐賀県RDB 『佐賀県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックさが』（2001, 佐賀県希少野生生物調査検討会）	「絶滅種」 県内ではすでに絶滅したと考えられる種 「絶滅危惧Ⅰ類種」 絶滅の危機に瀕している種 「絶滅危惧Ⅱ類種」 絶滅の危険が増大している種 「準絶滅危惧種」 存続基盤が脆弱な種 「情報不足種」 評価するだけの情報が不足している種 「絶滅のおそれのある地域個体群」 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
第1回自然環境保全基礎調査 野生生物選定一覧表（都道府県別のうち佐賀県）（1981, 環境庁自然保護局）	A～ 全国レベル保護対象 B～ 地方レベル C～ 都道府県レベル
干潟RDB 『WWF Japan Science Report -日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状-』（1996, (財)世界自然保護基金日本委員会）	「絶滅」 野生状態でどこにも見あたらなくなった種 「絶滅寸前」 人為の影響の如何に関わらず、個体数が異常に減少し、放置すればやがて絶滅すると推定される種 「危険」 絶滅にむけて進行していると見なされる種 「希少」 特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種 「状況不明」 最近の生息の状況が乏しい種

表 2- 2 注目すべき生物の選定結果（1／2）

生物分類	種名	主たる 選定理由	種の選定根拠							
			希少性			良好な環境 自然環境 保全調査 1981	生態系の特徴を表す種			
			環境庁 RDB 2000	佐賀県 RDB 2000	干潟 RDB 1996		上位性	典型性	特殊性	移動性
魚類 (10種)	アリアケギバチ	希少	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類						
	オヤニラミ	希少	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類		B				
	スナヤツメ	希少	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧					○	
	メダカ	希少	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧						
	アユ	生態								○
	オイカワ	生態						○		
	オオヨシノボリ	生態								○
	カワムツB型	生態						○		
	トウヨシノボリ	生態								○
マハゼ	生態						○			
底生動物 (15種)	アリアケモドキ	希少			希少					
	ウネナシトマヤガイ	希少			危険					
	オチバガイ	希少			危険					
	コシダカヒメモノアラガイ	希少	情報不足							
	ソトオリガイ	希少			危険					
	トンガリササノハ	希少	準絶滅危惧							
	ハザクラガイ	希少			危険					
	ハマグリ	希少			危険					
	マキトラノオガニ	希少			希少					
	マゴコロガイ	希少			絶滅寸前					
	マルタニシ	希少	準絶滅危惧							
	ミズゴマツボ	希少			絶滅寸前					
	モノアラガイ	希少	準絶滅危惧							
ユウシオガイ	希少			危険						
カワニナ	生態								○	
両生類 (2種)	カジカガエル	希少		準絶滅危惧		B・C		○		
	カスミサンショウウオ	希少		準絶滅危惧		C			○	
ほ乳類	カヤネズミ	生態						○		
陸上昆虫 (13種)	アオモンギンセダカモクメ	希少		情報不足						
	ベニイトトンボ	希少	絶滅危惧Ⅱ類							
	ベニツチカメムシ	希少		準絶滅危惧						
	コオイムシ	希少	準絶滅危惧							
	ホンサナエ	希少		準絶滅危惧						
	ムスジイトトンボ	希少	準絶滅危惧	準絶滅危惧						
	ゲンジボタル	生態				B			○	
	コオニヤンマ	生態						○		
	ゴヤマトンボ	生態						○		
	ニシカワトンボ	生態						○		
	ハグロトンボ	生態						○		
	ミヤマカワトンボ	生態						○		
	ヤマサナエ	生態						○		
鳥類 (20種)	アオバズク	希少		準絶滅危惧						
	オオジシギ	希少	準絶滅危惧			A				
	オオタカ	希少	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類						
	オシドリ	希少	準絶滅危惧	準絶滅危惧						
	ササゴイ	希少		絶滅危惧Ⅰ類						
	サシバ	希少		絶滅危惧Ⅱ類						
	サンショウクイ	希少	絶滅危惧Ⅱ類							
	チュウサギ	希少	準絶滅危惧							
	ツミ	希少		情報不足						
	ハイタカ	希少	準絶滅危惧				○			
	ハチクマ	希少	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類						
	ハヤブサ	希少	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類						
	フクロウ	希少		準絶滅危惧						
	ミサゴ	希少	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類			○			
	ヤマセミ	希少		絶滅危惧Ⅰ類		B・C			○	
	イカルチドリ	生態								
	カワウ	生態						○		
	カワガラス	生態						○		
	カワセミ	生態				C		○		
	コチドリ	生態							○	

表 2- 3 注目すべき生物の選定結果（2／2）

生物分類	種名	主たる 選定理由	種の選定根拠							
			希少性			良好な環境	生態系の特徴を表す種			
			環境庁 RDB 2000	佐賀県 RDB 2000	干潟 RDB 1996	自然環境 保全調査 1981	上位性	典型性	特殊性	移動性
植物 (26種)	アヤメ	希少		絶滅						
	イヌアワ	希少		絶滅危惧Ⅰ類						
	イヌドクサ	希少		絶滅危惧Ⅰ類						
	ウラギク	希少	絶滅危惧Ⅱ類							
	エビネ	希少	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類						
	カワヂシャ	希少	準絶滅危惧							
	コガマ	希少		準絶滅危惧						
	サガミトリゲモ	希少	絶滅危惧Ⅲ類							
	サヤヌカグサ	希少		絶滅危惧Ⅱ類						
	シナミズニラ	希少	絶滅危惧Ⅲ類	絶滅危惧Ⅰ類						
	シュラン	希少		準絶滅危惧						
	スジヒトツバ	希少		準絶滅危惧						
	センニンモ	希少		準絶滅危惧						
	ツクシテンツキ	希少	絶滅危惧Ⅱ類							
	ハママツナ	希少		準絶滅危惧					○	
	ヒメキシセウタ	希少	絶滅危惧Ⅲ類							
	フサモ	希少		準絶滅危惧						
	マツナ	希少		絶滅危惧Ⅰ類						
	ミズマツバ	希少	絶滅危惧Ⅱ類							
	ミゾコウジュ	希少	準絶滅危惧	準絶滅危惧						
	ヤマホオズキ	希少		絶滅危惧Ⅰ類						
	ワレモコウ	希少		準絶滅危惧						
	オオタチヤナギ	生態							○	
	オギ	生態							○	
	ツルヨシ	生態							○	
	メダケ	生態							○	

(2) 生態系の観点から注目すべき生物

前項「注目種」より、特に注目すべき種として、「上位性・典型性・特殊性・移動性」の4つの観点より選定した。

- ① 食物連鎖の頂点に位置する種およびその生息環境【上位性】
- ② 当該河川において典型的と考えられる生息生育環境および生物群集【典型性】
- ③ 典型性では把握しにくい特殊な生息・生育環境およびそこに生育・生息する生物群集【特殊性】
- ④ 広範囲にわたって移動する動物およびその経路【移動性】

表 2- 4 生態系の観点から注目すべき生物の抽出

環境区分		生態系注目種					
		植物	鳥類	両・爬・哺	陸上昆虫類	魚介類	底生生物
河 口 域	水域 (汽水)	シオクグ (特) ハマツナ (特) マツナ ウラギク	カワウ (典) ミサゴ (上) ハヤブサ	—	—	マハゼ (典)	—
	干潟	—	ミサゴ (上) ハヤブサ	—	—	マハゼ (典)	ハクセンシオマネキ マキノトラノオガニ マゴコロガイ
	草地	ミゾコウジュ イヌドグサ ツクシテンツキ	ミサゴ (上) ハヤブサ	—	—	—	—
松 浦 川 及 び 徳 須 恵 川 下 流 域	水域 (湛水)	ツルヨシ (典)	カワウ (典) ミサゴ (上)	—	ゲンジボタル (特) ミヤマカワトンボ (典) ニシカワトンボ (典)	アユ (移) オオヨシノボリ (移) トウヨシノボリ (移)	—
	草地	オギ (典)	—	カヤネズミ (典) カジカガエル (典) カスミサンショウウオ (特)	—	—	—
	樹林 (河畔林・竹林)	オオタチヤナギ (典) メダケ (典)	—	—	—	—	—
松 浦 川 及 び 徳 須 恵 川 中 流 域	水域 (瀬・淵)	ツルヨシ (典)	カワセミ (典) ミサゴ (上)	—	ゲンジボタル (特) ミヤマカワトンボ (典) ニシカワトンボ (典)	アユ (移) オオヨシノボリ (移) トウヨシノボリ (移) オイカワ (典) スナヤツメ (特)	カワニナ (特)
	河原	—	コチドリ (特) イカルチドリ (特)	—	—	—	—
	草地	オギ (典)	ハイタカ (上) サシバ	カヤネズミ (典) カジカガエル (典) カスミサンショウウオ (特)	—	—	—
	樹林 (河畔林・竹林)	オオタチヤナギ (典) メダケ (典)	カワセミ (典) ヤマセミ (典)	—	—	—	—
松 浦 川 中 上 流 域 及 び 厳 木 川	水域 (瀬・淵)	ツルヨシ (典)	ヤマセミ (典) カワガラス (典) ミサゴ (上)	—	ゲンジボタル (特) ミヤマカワトンボ (典) ニシカワトンボ (典)	アユ (移) トウヨシノボリ (移) カワムツB型 (典) スナヤツメ (特) アリアケギバチ	カワニナ (特)
	草地	オギ (典)	ハイタカ (上) サシバ	カヤネズミ (典) カジカガエル (典) カスミサンショウウオ (特)	—	—	—
	樹林 (河畔林・竹林)	オオタチヤナギ (典) メダケ (典)	カワセミ (典) ヤマセミ (典)	—	—	—	—

赤字：重要種

上：上位性 典：典型性 移：移動性 特：特殊性

表 2- 5 生態系の観点から注目すべき生物の選定理由

視点	生物分類	種名	選定理由
上位性	鳥類	ハイタカ	冬鳥として平野から山地に飛来し、小型鳥類を主食とする猛禽類。河川水辺の国勢調査での確認数が多い猛禽類であるため。
		ミサゴ	沿岸域や河川のような開放水面に生息する猛禽類。水域では水中の魚類を捕獲する。河川水辺の国勢調査での確認数が多い猛禽類であるため。
典型性	植物	メダケ、ツルヨシ、オギ	水際に生育し、いずれも松浦川水系（直轄区間）の植生面積の約10%を占めるため。
		オオタチヤナギ	面積的には少ないが、河畔林としていたるところに生育しているため。
	魚類	オイカワ（松浦川・徳須恵川）、カワムツB型（厳木川）	河川水辺の国勢調査において、河口を除きほとんどの地点で確認され、優占種であるため。
		マハゼ	干潮域の砂・泥底を好むハゼ科の魚類。干潮特有の干潟を代表する魚類と考えられる。
	陸上昆虫類	ハグロトンボ、ミヤマカワトンボ、ニシカワトンボ、ヤマサナエ、コオニヤンマ、コヤマトンボ	トンボ類は幼虫期を水中で過ごし、成虫は陸上昆虫等を捕食し、産卵を水辺で行うため、ほぼすべて水辺に関連がある。このうち、河川環境と密接に関連しており、堤内地と堤外地の環境をまたいで生活している種として左記が考えられる。
	両生類	カジカガエル	清透な溪流に生育する。生活史のほとんどを水中・水際で過ごすため、上流域の溪流環境を代表すると考えられる。
	ほ乳類	カヤネズミ	河川敷に優占するオギなどのイネ科植物の葉上に球状の巣を作る。平成9年度河川水辺の国勢調査では、厳木川を除く全調査地点で確認された。
	鳥類	カワウ	冬鳥として内湾や河川中下流域に渡来する。水域を採餌場所とし、河畔林や低水敷きを休息に利用する。
		カワセミ、ヤマセミ	留鳥であり、カワセミは河川中下流域を中心に、ヤマセミは山間溪流部で生息・繁殖する。河川沿いの土崖で繁殖し、水域で採餌、河畔林や草地等で休息するという河川環境への依存度が高い種である。
		カワガラス	留鳥であり、山間溪流の水域、低水敷で採餌・休息する。滝の裏や岩の隙間のほか、橋の裏や砂防ダムの穴などにも営巣する。
特殊性	魚類	スナヤツメ	清透な、緩やかな流れの流水地や湧水地などに生息し、平瀬や淵尻、水路などの小砂礫底に産卵する。水の汚れに弱く、有機物がたまるような場所では生息できない。
	底生動物	カワニナ	ゲンジボタルやヘイケボタルの餌生物であり、カワニナの生息はホタルの生息ポテンシャルを指標していると考えられる。ホタルに比べ確認がしやすいこともあり、ゲンジボタルに並べて選定した。
	両生類	カスミサンショウウオ	成体は山野地に生息するが、産卵は水域隣接した水域の水路等に行う。そのため、水辺と山野地が近接し、連続的に移動できる勾配である必要がある。それ故、生育環境が限られるため特殊性に列挙した。
	陸上昆虫類	ゲンジボタル	ゲンジボタルの生息には、幼虫の餌となるカワニナの生息が必要であり、さらに、水際が土堤であることと河畔林が存在することが生息条件と考えられている。現在ではこのような条件が揃うことは少ないため、特殊性に列挙した。
	鳥類	コチドリ、イカルチドリ	低水敷の砂礫・礫河原に生息し、採餌・休息・繁殖のすべてに河川敷きを利用する。松浦川水系では、礫河原が少ないため、特殊性に列挙した。
	植物	ハママツナ、シオクグ	汽水の冠水を受ける塩湿地特有の植物であり、松浦川下流のごく一部でしか生育が確認されていない。
移動性	魚類	アユ	川で産卵し、秋に海に降下し、春に遡上してくる回遊性魚。漁獲対象ともなっている。15～30cmの中型サイズである。回遊性であるため移動性に選定した。
		オオヨシノボリ、トウヨシノボリ	全国の河川に広く分布するハゼ科の魚。アユと同じ回遊性魚であるが、遡上時2cm程度の小型サイズである。回遊魚であるため移動性に選定した。

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

2-3-1 文化

(1) 名勝および天然記念物

松浦川流域内には、国指定天然記念物 3 物件、市町指定天然記念物 4 物件、国指定特別名勝 1 物件がある。

表 2- 6 松浦川流域の名勝および天然記念物

市町村	指定区分	名称	指定年月日
唐津市	(国)名勝	虹の松原	S30.3.24
	(市)天然記念物	舞鶴公園のフジ	S47.9.1
	(市)天然記念物	洞泉寺のイチョウ	S47.9.1
	(市)天然記念物	舞鶴公園のホルトノキ	S48.11.24
旧厳木町	(町)天然記念物	カヤの木	S53.5.17
山内町	(国)天然記念物	カネコシダ	S2.4.8
	(国)天然記念物	鵲(カササギ)	S12.3.7
武雄市	(国)天然記念物	川古の大楠	T13.12.9

注：厳木町はH17.1.1市町村合併により、唐津市厳木町に名称変更。

【虹の松原】（写真左に松浦川河口）



慶長年間(1596～1614)、唐津藩主寺沢志摩守広高が防砂防風林として、河岸砂丘に黒松を植林したもの。（幅 400～500m、長さ 5km、約 100 万本）

松原は、紺碧の松浦湾を縁どって美しい白砂青松の弧を描いており、その形から虹の松原と称されている。三保の松原、天の橋立と並び日本三大松原のひとつである。

（写真：唐津百景,唐津市）

【川古の大楠】

根回り 33m、目通り周囲 21m の巨木で、根が地上に隆起して、地上 2m 近くまでは根と幹との境がはっきりしない。幹の南側には空洞があり、その中に稲荷の石祠が祀られている。この空洞付近の幹に像高 240cm 余りの観音像が刻まれていたが、明治初頭の廃仏毀釈の際に削りとられた。そのとき像の頭部から鋳銅性の六手観音小座像が発見されたといわれ、現在この部落に保管されている。幹には観音像の痕跡が残っているが、行基が刻んだものと言われている。



（写真：武雄観光協会 HP）



図 2- 1 名勝および天然記念物位置図

(2) 文化財

松浦川流域内には、国指定文化財 5 物件、県指定文化財 14 物件があり、市町指定物件を加えると多くの文化財が存在する。

表 2- 7 松浦川流域の指定文化財

市町村	指定区分	名称	指定年月日
唐津市	(国)重要文化財	銅鐘（朝鮮鐘）	S25.8.29
	(国)重要文化財	肥前唐津市宇木出土品	S35.6.9
	(国)重要文化財	絹本著色揚柳観音像	S46.6.22
	(国)重要文化財	肥前唐津市桜馬場出土品	S32.2.19
	(国)重要無形民俗文化財	唐津くんちの曳山行事	S55.2.1
	(県)重要有形民俗文化財	唐津曳山	S33.1.23
	(県)重要文化財	宇木鶴崎出土有柄銅剣	S56.3.16
	(県)重要文化財	山田の銅像如来坐像	S59.3.21
旧相知町	(県)重要文化財（彫）	木造如意輪観音坐像	S53.3.20
	(県)重要文化財（彫）	木造薬師如来立像	S58.3.22
	(県)重要文化財（工）	肥前鐘	S36.3.24
旧厳木町	(県)重要文化財（建造物）	肥前鳥居（一基）	S39.5.23
	(県)重要無形民俗文化財	広瀬浮立	S48.4.23
	(県)重要文化財（工芸）	青銅鉢（12個）	S58.3.22
旧北波多村	(県)重要文化財（考古資料）	徳須恵遺跡出土銅鉢	S58.3.22
伊万里市	(県)重要無形民俗文化財	府招浮立	S43.4.23
山内町	(県)重要無形民俗文化財	かんこ踊	S41.4.23
	(県)重要有形民俗文化財	荒踊絵馬	S54.3.31
武雄市	(県)重要無形民俗文化財	真手野の舞浮立	S54.3.31

注：旧相知町・旧厳木町・旧北波多村はH17.1.1市町村合併により唐津市〇〇町に名称変更

【唐津くんちの曳山行事】



文政2年(1819年)、唐津神社に町人たち赤獅子を奉納したのに始まり、毎年11月2日～4日まで催される唐津神社の秋祭り、期間中約20万人（2005年）もの見物客で賑わう。エンヤーエンヤーの掛け声とともに、合計14台の豪華絢爛な曳山が市中を練り回る。曳山で一番古いものは約200年前の作品もある。

（写真：唐津百景,唐津市）

【広瀬浮立】



毎年、八幡神社の例祭がおこなわれる9月15日と、宮地嶽神社例祭である9月23日の両日天山神社境内で奉納されるものである。笛・鼓・大胴・大太鼓の役は、武家風の袴姿。三つの鳥居ごとに立ち止まってそれぞれ曲を奏し、三の鳥居から神前に向かう参道では、「ねじり囃子」という曲を奏しながら、鼓・大胴の役が足袋はだしとなって勇壮な所作を見せる。

（写真：旧厳木町 HP）

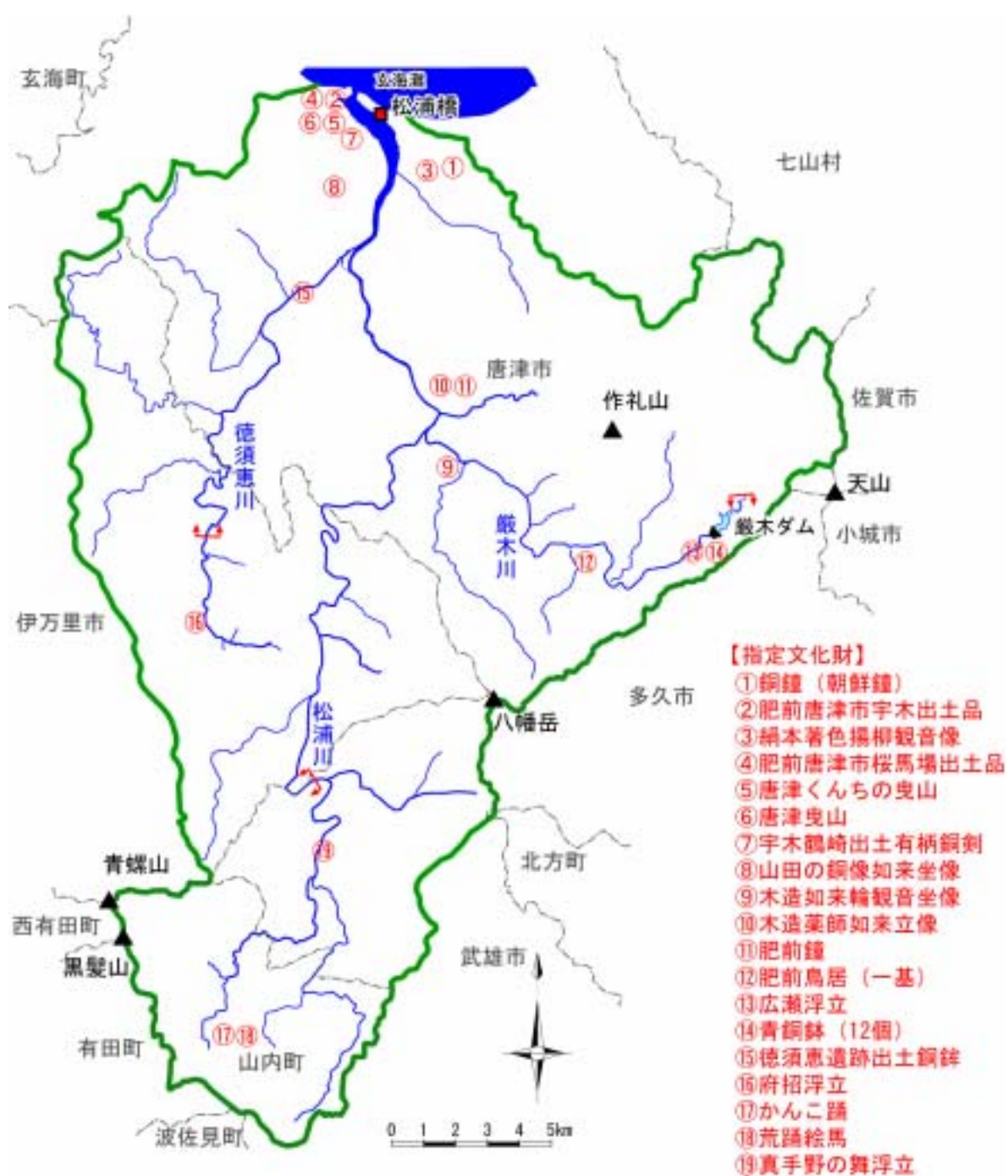


図 2-2 指定文化財位置図

(3) 史跡

松浦川流域内には、国指定史跡 7 物件、県指定史跡 4 物件、その他市町指定史跡が多数ある。唐津市周辺は、伊万里焼・唐津焼などの陶器が古くから盛んであり、遺跡・古墳のほかに窯跡の史跡指定が数多くみられる。

表 2- 8 松浦川流域の史跡

市町村	指定区分	名称	指定年月日
唐津市	(国)史跡	葉山尻支石墓群	S41.12.19
	(国)史跡	菜畑遺跡	S58.5.11
	(県)史跡	島田塚古墳	S47.3.29
旧相知町	(県)史跡	鵜殿石仏群	S31.3.31
旧北波多村	(県)史跡	岸岳古窯跡	S28.11.3
山内町	(国)史跡	肥前磁器窯跡	S55.3.24
	(県)史跡	筒江窯跡	S56.3.31
武雄市	(国)史跡	肥前陶器窯跡	S15.2.10
	(国)史跡	子峠窯跡	S15.2.10
	(国)史跡	太谷窯跡	S15.2.10
	(国)史跡	鯖谷窯跡	S15.2.10

注：旧相知町・旧北波多村はH17.1.1市町村合併により唐津市〇〇町に名称変更

【岸岳古窯跡】



唐津焼の源流といわれ、日本に初めて朝鮮系の陶器技法が伝承された貴重な遺跡である。古唐津と称される名器は北波多村において創始されたといわれている。

窯は斜面を利用して築かれた登り窯で、この窯の作品は、「叩き手」によって形成された壺などに透明鉄釉を施したもので、美しい青海波文の自然な文様や、飴色の釉薬の窯変発色などに特徴がある。今も唐津焼は伝承され、一楽二萩三唐津と茶人に愛されて、簡素に幽玄の美を今日に伝えている。

(写真：唐津市 HP)

【鵜殿石仏群】



文禄3年に書かれた鵜殿山平等寺略縁起によれば、弘法大師空海が唐にて密教を学び、大同元年(806年)に帰朝、松浦の地に着岸し当地に立ち寄った。そのとき空海はこの地が漢の霊域にも劣らない法地であると言われ、中央に観音、阿弥陀、釈迦の三尊を彫刻されたと記されている。

(写真：相知町ガイドマップ)

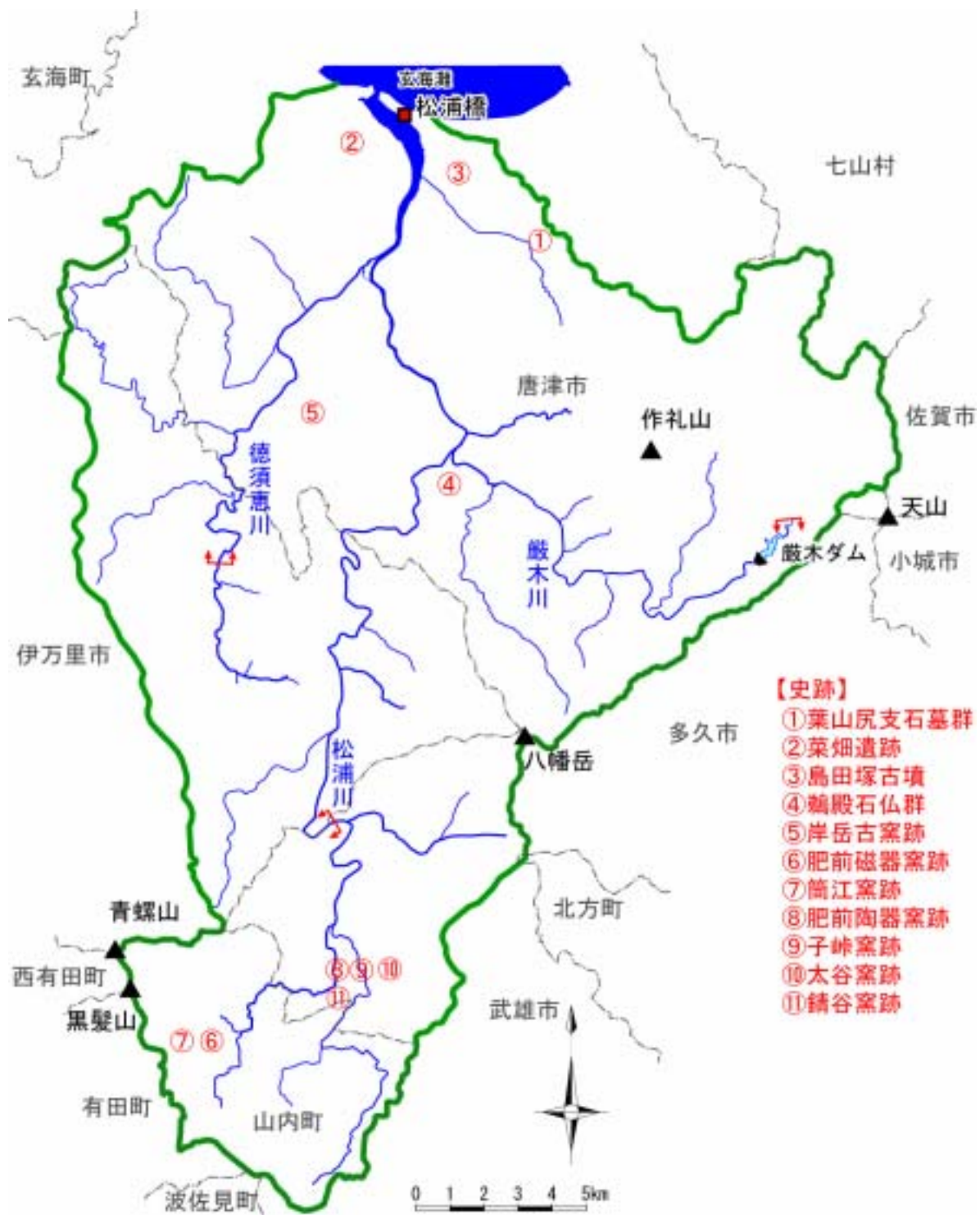


図 2- 3 史跡位置図

(2) 舟運

松浦川の舟運利用は、藩政時代から米や石炭などの輸送に利用されていた。松浦川本川 21k0 付近の駒鳴には集積場(石坂問屋)があり、この辺りまで航行していたと伺われる。

「井手おち」と呼ばれる甲板せきにより貯水し川船を航行していた。また「川除^{かわよけ}」といって、村の石高に応じた川さらいの出来を賦課されていた。などの川船の航行に工夫していた記述がある。(末廬国 編集：松浦史談会)

また明治 29 年、河口に唐津橋(松浦橋)が架けられるまでは、松浦川河口付近には 1 本の橋も無く、河口から一番近い橋は、徳須恵川合流付近の「川原橋」のみであった。江戸時代から明治のはじめまで、人々は渡し船を使うか、浅瀬を徒歩で渡って松浦川を往来していた。このため、松浦川から厳木川合流点付近の間に、9 つもの渡し場があった。

表 2- 9 松浦川下流旧渡し場一覧

名称	区間	備考
水島の渡し	満島～城下	武士のみ利用可
新掘の渡し	満島～船宮の新掘	庶民の渡し場
大渡し	半田川河口～和多田大土井	
鬼塚渡し	久里の古賀鶴～鬼塚(鬼塚駅)	
筑前渡し	久里の土井～山本の橋本	
下双水の渡し	下双水～山本の向う鶴	
上双水の渡し	上双水～山本の新月寺下	
大野渡し	大野～三反間	
久保の渡し	久保～相知山崎	

【井手おち】

松浦川の上流では、川が浅く、急な瀬もあったので、荷物を積んだ船が通れない場所もあった。そこで、舟場の上流に「井手(堰)」を作って水を溜め、船が下るときに井手をあけて溜めておいた水を流し、その流れに乗って川を下る方法がとられていた。



【M44～45 年頃の渡し状況】

出典：武雄河川事務所

(3) イダ伝説

松浦川上流域の黒髪山にまつわる伝説で、昔、ここに悪い大蛇が住みつき、様々な害を起こしていた。そこで、天治元年(約 900 年前)に鎮西八郎為朝という人物がこれを退治したということである。退治された大蛇は松浦川に流れ込み沢山の石斑魚(イダ)になって海に入り、毎年春になると遡って黒髪山に御礼詣をする。そのため松浦川本流以外の川には遡らなかったと言われる。松浦川のことを「イダ川」と書くなど松浦川の季節的川魚で大川野近隣の名物であった。

(末廬国 編集：松浦史談会)

イダは春一番が吹く頃に川を遡ることから、大川野では、春一番のことを「イダ嵐」とも言う。

【ウグイ (イダ)】 (コイ目コイ科)



河川では、上流から河口域までの広い範囲に生息している。主として淵などにすみ、単独または群で動き回るものが多い。季節的には、夏季は表層に、冬季は深みに移る。

(出典：川の生物図典,山海堂)

2-3-2 イベント・観光

(1) イベント

松浦川流域の市町では、数多くの行事が催されている。なかでも唐津くんちは佐賀県を代表するお祭りの一つであり、豪華絢爛な14台の曳山が市中を練り回る。また、河口部の水面に美しく映し出される九州花火大会は、夏の風物詩として地域に広く定着している。

表 2- 10 松浦川流域市町村の主な年中行事

流域内市町	イベント名称	開催時期	概要
唐津市	九州花火大会	7月下旬	新聞社が市民へのサービスとして昭和28年から始めたものが、伝統行事として毎年行われている。松浦川3k9付近の右岸の唐津市鏡河畔公園運動広場を利用して、多くの人が見物に訪れる。
	虹ノ松原トライアスロン大会	7月	この大会は、唐津の虹の松原や鏡山など素晴らしい自然を全国の方々に知って欲しいとの願いから地元のトライアスロングループを中心に多くの市民の協力を得て2000年から開催し、唐津市の新たなイベントとして期待される。
	鏡商工祭り	10月	「松浦川ブラックバス駆除釣り大会」や「鏡を知る探索ウォーク」などが行われる。
	唐津くんち	11月2～4日	文政2年（1819年）、唐津神社に町人達が赤獅子を奉納したのに始まった秋祭り。で、国指定重要文化財にも指定されている豪華絢爛な14台の曳山が唐津市中を練りまわる。
旧相知町	見返りの滝ニジマス釣り大会	春期	割烹組合4軒が主催。ヤマメの放流やたけのこ取り大会も行っている。
	横枕井堰祭り	春期	横枕集落の歴史に触れ、四季を通じて井堰を取り入れたイベントを実施。自然を愛し、故郷を語り合い、集落内のコミュニケーションを図っている。（厳木川3k付近）
	町切水車・取り付け研修交流	5月	参加者全員で環境美化活動のあと、参加者全員「研修生」となって水車の取り付けを体感し、自然の営みの中で「町切水車」の役割などを研修。また河川、町切堰周辺の環境、散策、歴史探訪会も実施。
	牟田部のいかだ流し大会		河川清掃が目的。バーベキュー、そうめん流しなどを行う。厳木川山崎橋～田頭橋。
旧厳木町	アユ祭り	7月下旬	河川美化、水産資源の保護を目的としている祭り。河原でせせらぎの音を聞きながら、炭火焼きのアユ・ヤマメなどを楽しむイベント。（厳木川11k5付近）
	広瀬浮立	9月末	毎年、八幡神社の例祭がおこなわれる9月15日と、宮地嶽神社例祭である9月23日の両日天山神社境内で奉納されるものである。
	風の里祭り	11月	駅伝大会の実施。
旧北波多村	行合野コイ祭り	5月初旬	5月の第1日曜日開催。場所は徳須恵川中村橋付近で、鯉のぼりをあげたり、コイの放流を行っている。
	北波多環境の日(河童の里イカダレース)	夏期	発泡スチロールによるカヌーレースで、村おこしグループが主催。大杉公民館近くの護岸では、焼き鳥や飲み物バザーなどの出店もあり、楽しい雰囲気の中でレースが開催されている。（徳須恵川4k5付近）
伊万里市	大井手おとし	10月下旬	約400年前に造られた萩ノ尾堰に感謝を込めて近年2年おきに実施。松浦川31k4付近。
	馬ノ頭堰まつり		2年に一度開催。成富兵庫重安を奉るお祭り。で、地元主催。
	桃の川フェスタ		2年に一度開催。夏場に河川清掃をおこなう。地元以外からも参加者が募る。

注：旧相知町・旧厳木町・旧北波多村はH17.1.1市町村合併により唐津市〇〇町に名称変更

【唐津くんち】



(写真：「唐津百景」唐津市)

【九州花火大会】



(写真：「唐津百景」唐津市)

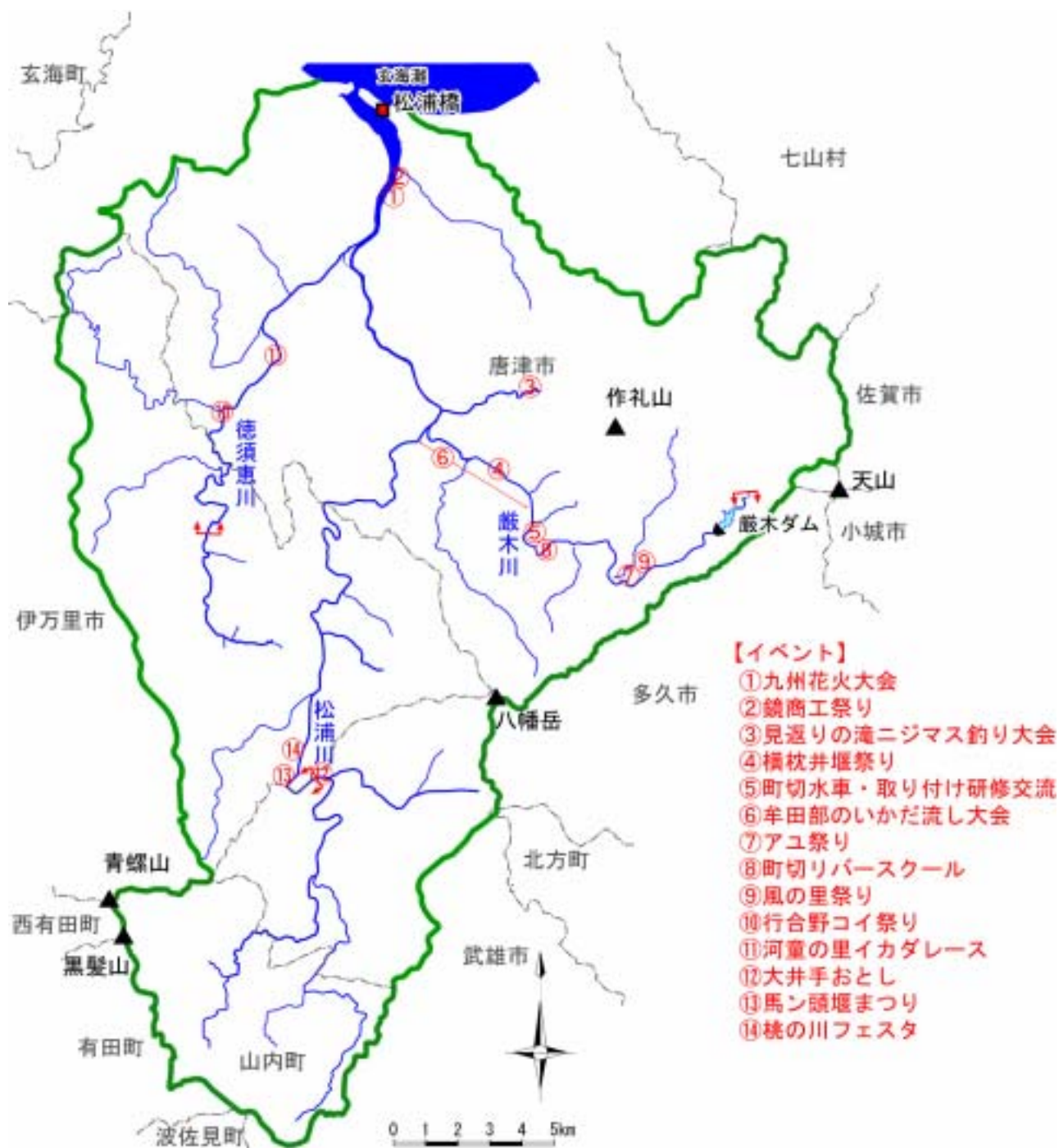


図 2- 4 主なイベント位置図

(2) 観光

松浦川流域の下流部には、玄海国定公園・日本三大松原の一つである虹の松原、中流部には、見返りの滝・日本棚田百選に選ばれている^{わかびの}蕨野の棚田、上流部には、全国第三位の巨樹である川古の大楠など、自然を活かした観光資源が多く存在する。また、唐津城や唐津焼きで有名な窯跡など、歴史的観光施設(史跡)もある。

表 2- 11 松浦川流域市町村の主な観光資源

流域内市町村	観光資源
唐津市	「玄海国定公園」／「虹の松原」／「唐津城」／「唐津曳き山」／「舞鶴公園」／「唐津神社」／「近松寺」／「鏡山」／「東の浜公園」／「東の浜海水浴場」／「鏡神社」／「恵日寺」／「銅鐘」／「宇木汲田遺跡出土品」／「葉山尻支石墓」
伊万里市	「大川内山窯元」
旧相知町	「相知くんち」／「鶴殿石仏群」／「見返りの滝」／「八幡岳県立自然公園」／「芙蓉山医王寺」／「佐里温泉」／「蕨野の棚田」
旧厳木町	「室園神社の肥前鳥居」
旧北波多村	「岸岳城跡」／「旗本百人腹切り場所」／「岸岳古窯跡」／「瑞厳寺」／「岸山法安寺」
山内町	「黒髪山県立自然公園」
武雄市	「備前陶器窯跡」／「小峠窯跡」／「大谷窯跡」／「錆谷窯跡」／「黒牟田焼」／「川古の大楠」／「八幡岳県立自然公園」

注：旧相知町・旧厳木町・旧北波多村はH17.1.1市町村合併により唐津市〇〇町に名称変更

【見返りの滝】



(写真：唐津市観光課パンフレット)

【唐津城】



(写真：唐津百景,唐津市)

【蕨野の棚田】



(写真：相知町ガイドマップ)

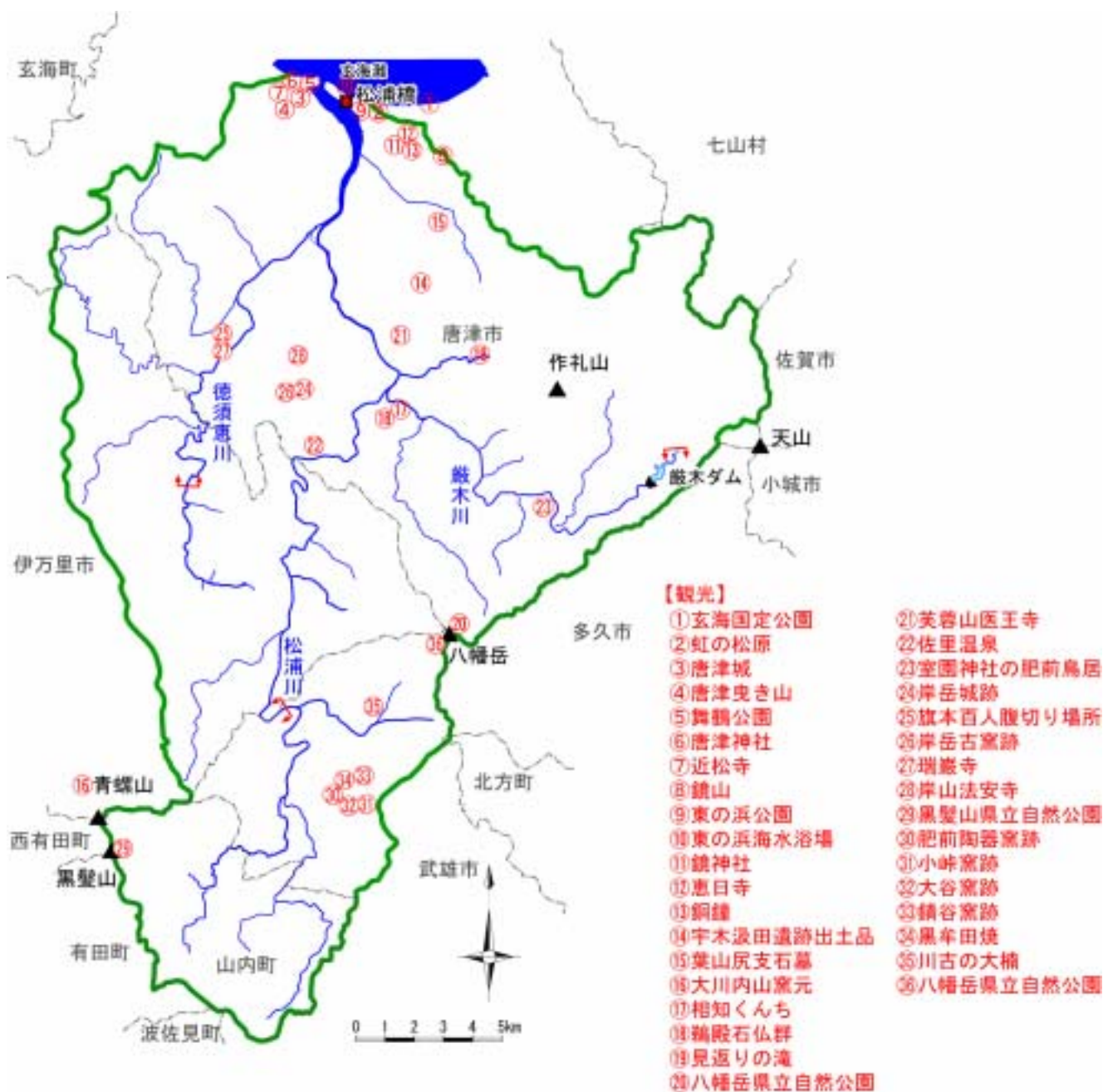


図 2- 5 主な観光資源位置図

2-4 自然公園等の指定状況

松浦川流域の自然公園指定状況は、国定公園 1 箇所・県立自然公園 3 箇所の指定を受けている。その他以下のように自然保護関連の指定がされている。

表 2- 12 松浦川流域の自然公園指定状況

名称	面積(ha)	指定年月日	備考
玄海国定公園	14,275	S31.6.1	・九州の北西岸、玄界灘に臨んだ海岸部に広がる一大海洋公園。東は北九州若松区遠見鼻から、西は東松浦半島の西岸部までの海岸部と沿岸部の島々からなる。 ・指定区域は、福岡・佐賀・長崎の3県にまたがっている。 ・園内は、玄武岩の柱状節理が発達した海食洞門や弧状の松原海岸が多く、大陸文化の窓口であったことから文化的遺産も多く点在している。特に、虹の松原(特別名勝)・鏡山・唐津城等は風光明媚な箇所である。
天山 県立自然公園	4,930	S45.10.1	・天山山地の主峰天山と作礼山を中心とした山岳公園。 ・指定区域は、厳木町・相知町・多久市・富士町・小城町にまたがっている。 ・天山は県下では、三番目に高い山で、肥前アルプスと呼ばれる。山頂には天山神社があり、雄大な眺望を有する。また作礼山はハイキング・キャンプの適地で、名勝として知られる見返りの滝がある。
八幡岳 県立自然公園	860	S45.10.1	・武雄市の北端部にそびえる、標高764mの八幡岳を中心とした山岳公園。 ・指定区域は伊万里市・武雄市・厳木町・相知町・多久市にまたがっている。 ・八幡岳は筑紫山地の一峰で、山頂一帯にはススキが多く、池・山小屋があり、相知町にはキャンプ場も開かれている。また山ツツジが群生し、開花期の5月は見頃である。
黒髪 県立自然公園	1,684	S12.7.5	・有田町と山内町の境にそびえる黒髪山を中心とした山岳公園。 ・指定区域は、伊万里市・山内町・西有田町・有田町にまたがっている。 ・黒髪山は「肥前耶馬溪」とも称される景勝地で、自然休養林にも指定されている。

【玄海国定公園（東の浜）】



(写真：唐津百景,唐津市)

【天山県立自然公園】



(写真：旧小城町 HP)

表 2- 13 松浦川流域の鳥獣保護区指定状況

名称	主たる所在地	期間	面積(ha)
岸岳鳥獣保護区	唐津市	H12.11.1～H22.10.31	24
唐津鳥獣保護区	唐津市	H13.11.1～H23.10.31	575
天山鳥獣保護区	佐賀市・唐津市・多久市・小城市	H15.11.14～H25.10.31	278
稗田鳥獣保護区	唐津市	H15.11.14～H25.10.31	10
八幡岳鳥獣保護区	唐津市	H15.11.14～H25.10.31	75
作礼山鳥獣保護区	唐津市	H16.11.12～H26.10.31	465
黒髪山鳥獣保護区	伊万里市・有田町・西有田町・山内町	H16.11.12～H26.10.31	2,202

表 2- 14 松浦川流域の鳥獣保護区特別保護地区指定状況

名称	主たる所在地	期間	面積(ha)
黒髪山特別保護地区	山内町	H16.11.12～H26.10.31	56

表 2- 15 松浦川流域で確認された重要な植物群落一覧

件名	所在地
作礼山のアカマツ林	唐津市厳木町、唐津市相知町
作礼山、ジュサイ池の水生植物群落	唐津市厳木町、唐津市相知町
虹の松原のクロマツ林	唐津市東唐津から唐津市浜玉町にかけての海岸線
虹の松原、海岸の砂丘植物群落	唐津市東唐津から唐津市浜玉町にかけての海岸線
八幡岳の自然林	唐津市相知町、武雄市、多久市
舞鶴公園の暖温帯樹林	唐津市東城内
岸岳のツクバネウツギ群落	唐津市北波多、唐津市相知町
黒髪山の岩角地植物群落	西有田町、有田町、山内町
黒髪山のカネコシダ群落	西有田町、有田町、山内町
黒髪山のアカマツ林	西有田町、有田町、山内町

出典：佐賀県自然環境情報図(第3回自然環境保全基礎調査),平成元年環境庁



図 2- 6 自然公園、特定植物群落位置図

第3章 流域の社会状況

3-1 土地利用

松浦川流域内の土地利用面積の割合は、山地等が 84%、水田や畑地等の農地が 15%、宅地等の市街地が 1%となっている。

宅地等の市街地は松浦川下流の唐津市に集中しており、唐津市を中心として国道や JR、西九州自動車道（整備中）などの整備がなされ、この地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。

また佐賀県内の 6 つの県立自然公園のうち、3 つが松浦川流域内にまたがり、河口域は玄海国定公園を有しており、自然が豊かな流域である。

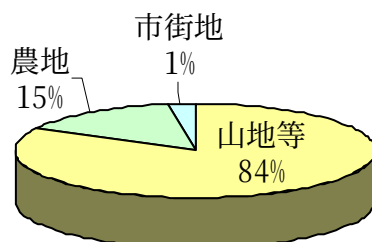


図 3- 1 松浦川土地面積割合図



【松浦川河口部と唐津市街】

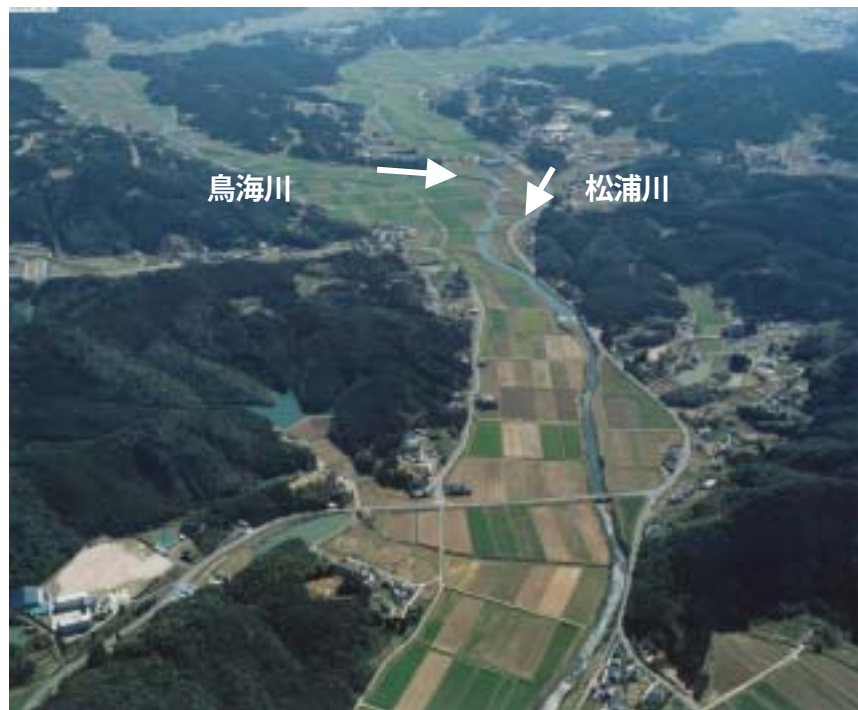


図 3- 2 佐賀県内の自然公園と
松浦川流域内の自然公園

中上流部では、山間平地で水田や田畑等の農地利用がなされている。主な利用は稲作であるが、河川改修の進捗にともなう洪水氾濫の減少により、ハウス栽培などの高度な農地利用が進んでいる。



【松浦川 25k 川西橋付近、山間部の田畑風景】



【松浦川 鳥海川合流点付近、山間部の田畑風景】

3-2 人 口

流域内の主要な市である唐津市の人口は約 13 万人であり、県内第 2 位の人口を誇る。

松浦川流域内の人口は約 10 万人で、人口密度は 225 人/km²であり、佐賀県人口の約 11% を占めている。

流域内の人口は、横這いで約 10 万人前後で推移している。一方、氾濫区域内の人口は、増加傾向であったが、近年は横ばい状態にある。

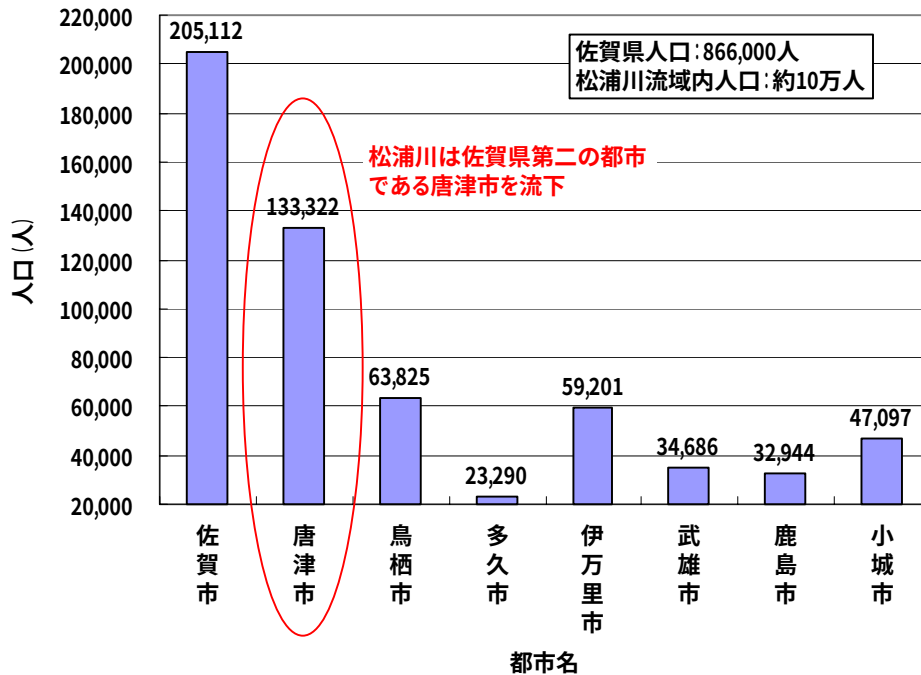


図 3- 3 佐賀県内の主要な都市の人口（出典：各市の HP）

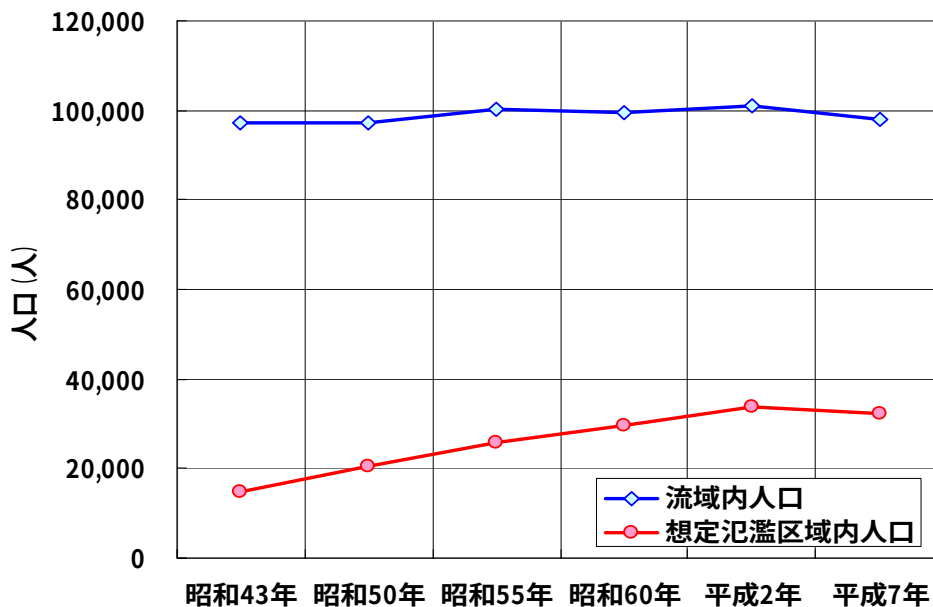


図 3- 4 松浦川流域内および氾濫区域内人口の推移（出典：河川現況調査）

3-3 産業経済

流域内および想定氾濫区域内の産業大分類別従業員数および農業生産額と製造品出荷額の推移を示す。

産業別人口を見ると、一次産業従業者年々減少しているのに対し、二次・三次産業は微増傾向にある。

また、生産額の推移は、農業生産額が横這い状態に対し、製造品出荷額は昭和60年をピークに減少傾向にある。

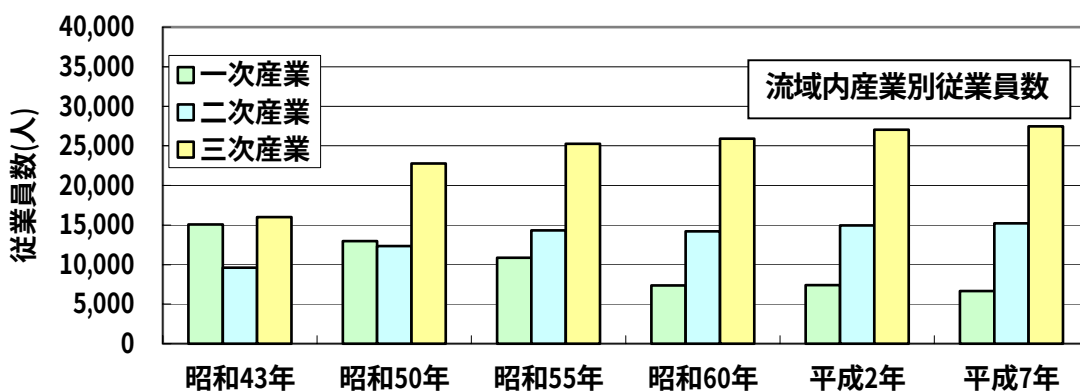


図 3-5 流域内産業別従業員の推移

(出典：河川現況調査)

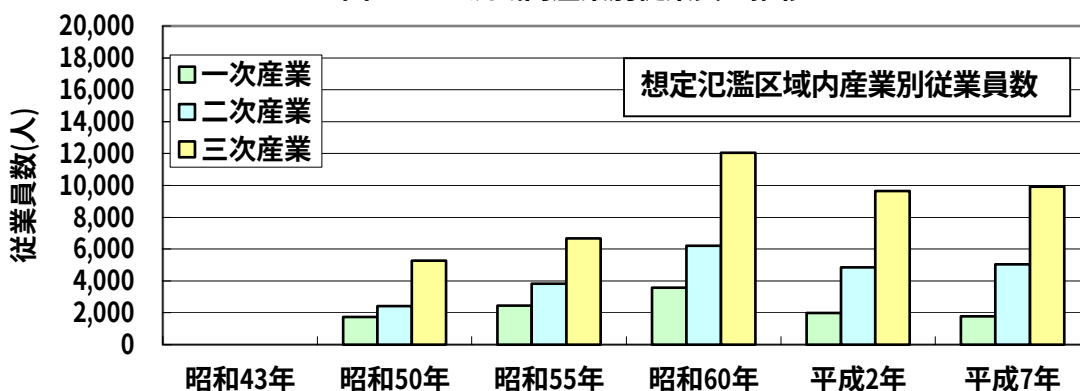


図 3-6 氾濫区域内産業別従業員の推移

(出典：河川現況調査)

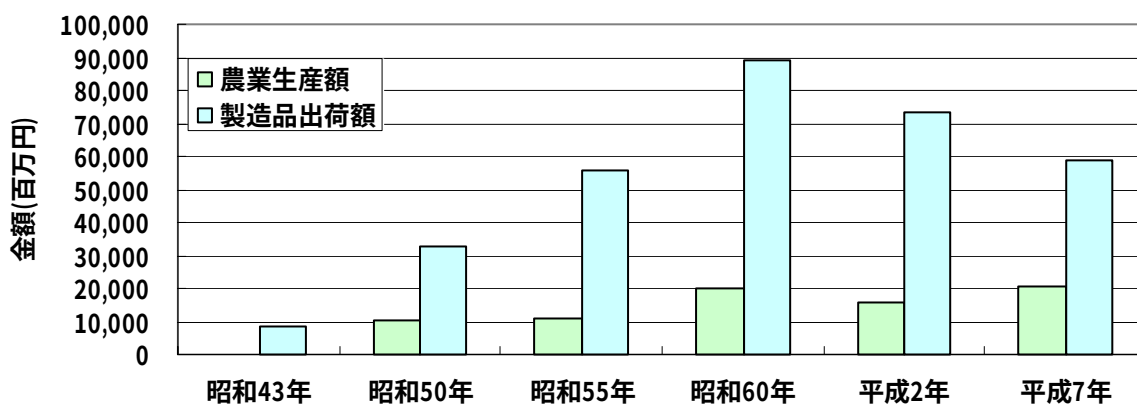


図 3-7 流域内農業生産額と製造製品出荷額の推移

(出典：河川現況調査)

3-4 交通

松浦川流域は、国道 35・202・203・204 号線、JR 筑肥線・唐津線・佐世保線などを持ち、唐津市を中心とした交通網の整備がなされている。国道 202 号は支川徳須恵川沿いを、国道 203 号は支川厳木川沿いを併走し、各々伊万里市と唐津市、佐賀市と唐津市を結び、福岡までつながる幹線道路として利用されている。

また現在、西九州自動車道が整備中であり、長崎～唐津～福岡への円滑な交通が期待される。



図 3- 8 松浦川流域の主要交通網図

第4章 水害と治水事業の沿革

4-1 既往洪水の概要

松浦川での大規模な洪水の多くは梅雨前線によるものである。

松浦川に大きな被害をもたらす洪水は、梅雨前線が流域上に停滞して発達した低気圧が前線上を通過した場合と、南西海上に台風が発生して湿った空気を梅雨前線上に送りこんだ場合に大雨をもたらすケースが多い。

表 4- 1 過去の主な洪水と洪水被害

洪水発生年	出水概要	被害状況
昭和 28 年 6 月 (梅雨前線)	24 日午後から 25 日早朝にかけて、満州から華中方向へ南西にのびる気圧の谷が次第に深まり、山東半島の南に低気圧を伴って接近したため、梅雨前線が北上し、佐賀地方は 25 日朝から雨となった。午後からますます強くなり、26 日昼にはすでに 400mm の大雨となり、壊滅的な被害を引き起こした。	家屋全・半壊流失 573 戸 床上浸水 30,537 戸 氾濫面積 (農地) 1,270ha
昭和 42 年 7 月 (梅雨前線)	台風 7 号の衰弱した低気圧が九州北部を通過し梅雨前線を刺激して、県西部を中心に集中豪雨が降り、相知 72mm、鳥海 93.6mm、宇木 67.5mm と記録的な大集中豪雨となった。	家屋全壊流失 42 戸 床上浸水(半壊含む) 1,392 戸 床下浸水 4,843 戸 氾濫面積 5,176ha
昭和 47 年 7 月 (梅雨前線)	日本海北部まで北上していた梅雨前線が、9 日午後には再び九州北部まで南下し、13 日まで停滞した。10 日午後 3 時頃より局所的に集中豪雨が降った。松浦川上流の大川野では午前 4 時から 7 時までの 3 時間に 98.5mm の降雨であったのを始め、相知では 106mm を記録した。	家屋全壊流失 2 戸 床上浸水 25 戸 床下浸水 451 戸 氾濫面積 398ha
昭和 51 年 8 月 (梅雨前線)	朝鮮半島にあった低気圧が東進するに伴い、前線が南下し、九州北部一帯に局所的な集中豪雨をもたらした。3 日朝方から降り出し、鳥海では 1 時間に 63mm の降雨を記録し、畑川内でも 45mm を記録した。	床上浸水 280 戸 床下浸水 293 戸 氾濫面積 757ha
昭和 57 年 7 月 (梅雨前線)	16 日早朝に低気圧が済州島に近づくと共に、九州北部を通る梅雨前線は次第に活発となって、日中は九州がほぼ前線の雨側に入った。10 時頃にかけては、福岡県北部から西南西に伸びる強い雨雲がほぼ佐賀県北部、西部に停滞した。16 日日雨量は、佐賀県のほとんどの観測所で 100mm を越えた。	床上浸水 131 戸 床下浸水 261 戸 氾濫面積 448ha
平成 2 年 7 月 (梅雨前線)	台風 6 号が弱まった低気圧が九州の西海上に接近するにつれて、梅雨前線の活動も一段と活発化となり、九州の中部から北部へと北上し、2 日未明から雨が一段と激しくなった。降雨は午前中にかけて短時間に集中し、鳥海雨量観測所では 3 時から 9 時までの 6 時間に観測史上最大の 247mm を記録した。	家屋全壊流失 3 戸 家屋半壊 11 戸 床上浸水 130 戸 床下浸水 422 戸 氾濫面積 1,623ha
平成 3 年 6 月 (梅雨前線)	低気圧が 9 日夜に朝鮮半島を東進し日本海に向かった。この低気圧から南西に伸びる寒冷前線がゆっくり南下し、21 時に朝鮮半島に達した。この前線に向かって湿った空気が南西風の流れ込みで前線の活動が活発となった。	床下浸水 29 戸 氾濫面積 337ha
平成 5 年 8 月 (低気圧・前線)	九州北部に停滞していた前線は、東シナ海に発生した低気圧が接近するにつれて活動を強めながらゆっくり北上を始め、しかも前線に向かって湿った南西の風が流れ込み、前線の活動を一段と活発化させたため、佐賀県全域で一時間 40 から 50mm の激しい雨が降った。	床上浸水 7 戸 床下浸水 143 戸 氾濫面積 173ha

※被害状況は、「北部九州災害実態調査書」、「水害統計」から記載

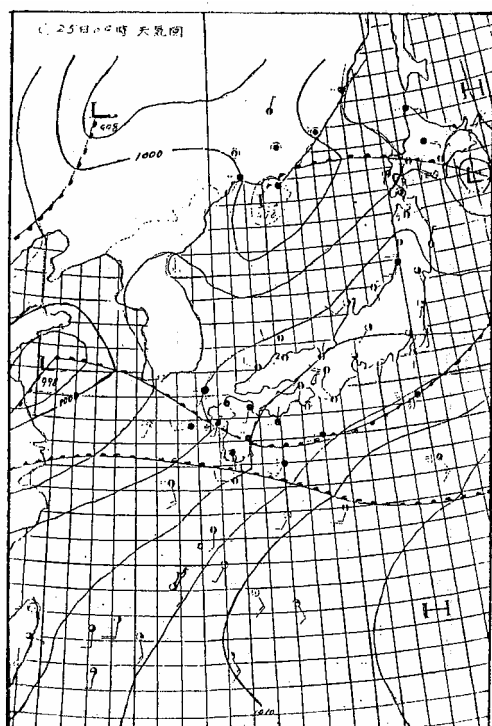
昭和 28 年 6 月洪水

24 日午後から 25 日早朝にかけて、満州から華中方向へ南西にのびる気圧の谷が次第に深まり、山東半島の南に 998mb の低気圧を伴って接近したため、梅雨前線が北上し、佐賀地方は 25 日朝から雨となった。午後からますます強くなり、26 日朝から昼まで再び第 2 波の激しい強雨が襲い、家屋全・半壊流失 573 戸、床上浸水 30,537 戸、氾濫面積(農地)1,270ha に達し、壊滅的な被害を引き起こした。

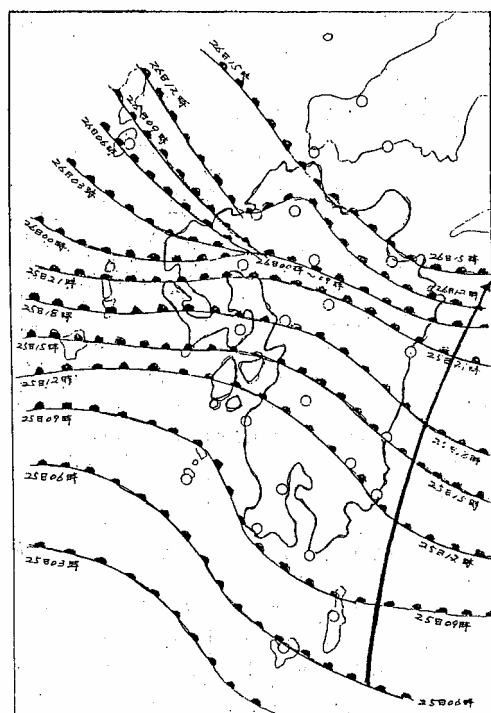
25 日～28 日までの降雨量は、相知 739.5mm、唐津 620mm、伊万里 610mm であった。



【厳木川 厳木橋(9k900 付近)】



【昭和 28 年 6 月 25 日 9 時天気図】



【昭和 28 年 6 月 25～26 日梅雨前線移動図】

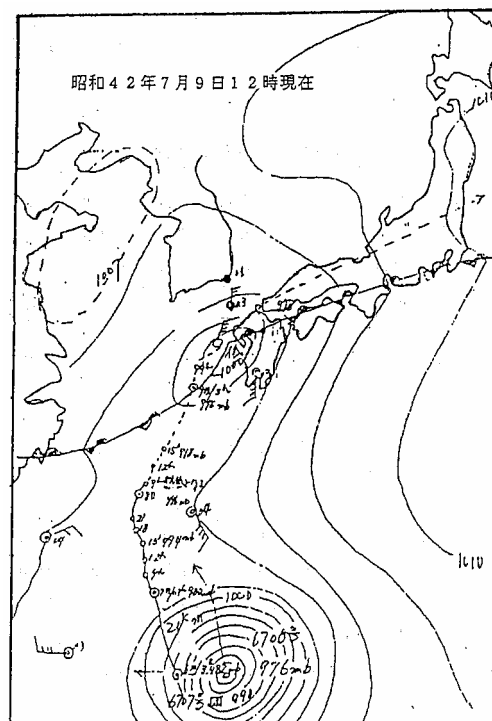
昭和 42 年 7 月洪水

台風 7 号の衰弱した低気圧が九州北部を通過し梅雨前線を刺激して、県西部を中心に集中豪雨が降り、相知 72mm、鳥海 93.6mm、宇木 67.5mm と記録的な大集中豪雨となった。

今回の集中豪雨により、計画高水位を突破する大洪水となり、松浦川は全川で氾濫を生じ大災害を引き起こした。



【巖木川合流点】



【台風 7 号経路図と気圧配置図】

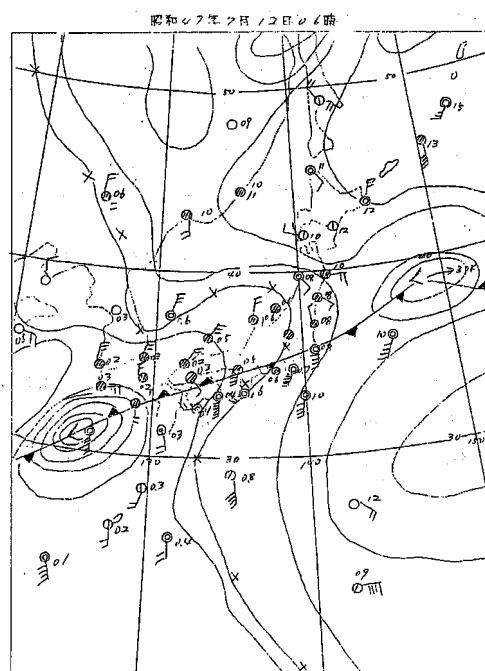
昭和 47 年 7 月洪水

日本海北部まで北上していた梅雨前線が、9 日午後には再び九州北部まで南下し、13 日まで停滞した。10 日午後 3 時頃より局所的に集中豪雨が発生した。松浦川上流の大川野では午前 4 時から 7 時までの 3 時間に 98.5mm の降雨であったのを始め、相知では 106mm を記録した。

今回の集中豪雨により、計画高水位を突破する大洪水となり、松浦川は全川で氾濫を生じ大災害を引き起こした。



【徳須恵川 行合野(7k000 付近)】



【昭和 47 年 7 月 12 日天気図】

昭和 51 年 8 月洪水

朝鮮半島にあった低気圧が東進するに伴い、前線が南下し、九州北部一帯に局所的な集中豪雨をもたらした。

3 日朝方から降り出し、鳥海では 1 時間に 63mm の降雨を記録し、畑川内でも 45mm を記録した。このため本川の牟田部観測所では計画水位を越える大出水となり、川西橋、徳須恵橋観測所等も警戒水位を突破する出水となった。

その後、前線はしばらく九州北部に停滞したため、ぐずついた天気が続いたが 5 日には北上して天気は回復した。

昭和 57 年 7 月洪水

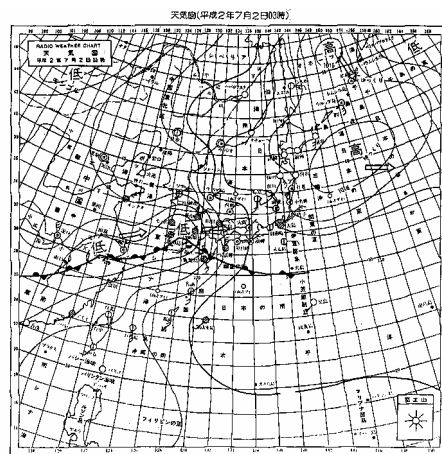
16 日早朝に低気圧が済州島に近づくと共に、九州北部を通る梅雨前線は次第に活発となって、日中は九州がほぼ前線の雨側に入った。10 時頃にかけては、福岡県北部から西南西に伸びる強い雨雲がほぼ佐賀県北部、西部に停滞した。昼には雨雲の中心は佐賀県南部に移り、その後強い雨雲も分散し始め、前線の南下に伴い、佐賀県内の強い雨は峠を越えた。16 日日雨量は、佐賀県のほとんどの観測所で 100mm を越えた。

平成 2 年 7 月洪水

台風 6 号が弱まった低気圧が九州の西海上に接近するにつれて、梅雨前線の活動も一段と活発化となり、九州の中部から北部へと北上し、2 日未明から雨が一段と激しくなった。降雨は午前中にかけて短時間に集中し、鳥海雨量観測所では 3 時から 9 時までの 6 時間に観測史上最大の 247mm を記録した。

川西橋、牟田部、徳須恵橋、中島橋水位観測所では警戒水位を突破し、川西橋では計画高水位に達した。

松浦川流域で、家屋全壊流出 3 戸、家屋半壊 11 戸、床上浸水 130 戸、床下浸水 422 戸、浸水面積 1,623ha に達し、近年稀にみる多大な被害となった。



【平成 2 年 7 月洪水天気図】



【松浦川 川西橋下流(25k000 付近)】



【浸水氾濫図（平成 2 年 7 月洪水）】

4-2 治水事業の沿革

(1) 治水事業

松浦川における治水事業の歴史は古く、慶長13年（1607年）、唐津藩主寺沢志摩守広高^{てらさわしものかみひろたか}が、唐津城の要害を固めるために松浦川の改修に着手し、現在の川筋にしたといわれている。この松浦川の改修は、城の防御だけでなく、舟運を開き、洪水を防御し水田を開発した。この水田を潮風から守るために防風林を植林しており、これが二里^{にり}の松原^{まつばら}（虹の松原）と呼ばれ、現在、国の特別名勝として唐津市の代表的な観光資源となっている。

松浦川の本格的な治水事業は、昭和23年7月洪水、同年9月洪水を契機に、昭和24年から中小河川改修事業として、松浦橋地点における計画高水流量を $2,100\text{m}^3/\text{s}$ とし、唐津市山本^{やまもと}から河口までの区間及び徳須恵川の唐津市石志^{いしと}から合流点までの区間について、築堤、護岸等の整備を実施した。

その後、昭和28年6月洪水による未曾有^{みそいう}の災害を受け、昭和36年より直轄事業として松浦橋地点における計画高水流量を $2,700\text{m}^3/\text{s}$ とした改修計画に改訂し、築堤、護岸整備、橋梁架け替えを実施するとともに、河道掘削及びそれに伴う塩水遡上による塩害防止を目的とする松浦大堰を建設した。

その後、昭和42年7月、昭和47年7月等の洪水の発生及び流域の開発等を踏まえ、昭和50年に基準地点松浦橋における基本高水のピーク流量を $3,800\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち洪水調節施設により $400\text{m}^3/\text{s}$ を洪水調節して、計画高水流量を $3,400\text{m}^3/\text{s}$ とする工事実施基本計画を策定した。この計画に基づき、駒鳴捷水路工事等^{こまなき}に着手し流下能力の向上を図り、昭和62年には厳木ダムが完成した。

その後、平成2年7月洪水により甚大な被害を受けたため、中上流部において、築堤、護岸整備、橋梁架け替え等を実施し、流下能力の向上を図った。現在は、松浦川、徳須恵川及び厳木川の上流部において、築堤及び河道掘削等の事業を進めている。

砂防事業については、昭和18年から支川宇木川において佐賀県が砂防堰堤等を整備している。

表 4- 2 治水事業の沿革

西暦	年号	記事
1961 年	昭和 24 年	・松浦川改修全体計画 計画高水流量：2,100m ³ /s
1961 年	昭和 36 年	・直轄河川改修に編入
1963 年	昭和 38 年	・総体計画書策定 計画高水流量：2,700m ³ /s
1965 年	昭和 40 年	・新河川法施行
1967 年	昭和 42 年 5 月	・松浦川一級河川に指定
	昭和 42 年 6 月	河川名 改修計画区間 松浦川 0k000～25k000+100 徳須恵川 0k000～5k800 巖木川 0k000～5k400+80 ・松浦川水系工事実施基本計画施行 基本高水のピーク流量：2,700m³/s（松浦橋） 計画高水流量：2,700m³/s（松浦橋）
1968 年	昭和 43 年	・直轄管理区間の区間延長 松浦川 25k600～31k400
1973 年	昭和 48 年	・直轄管理区間の区間延長 徳須恵川 5k800～14k400
1974 年	昭和 49 年 3 月	・松浦大堰 完成
1975 年	昭和 50 年	・松浦川水系工事実施基本計画施行（第 1 回改定） 基本高水のピーク流量：3,800m ³ /s（松浦橋） 計画高水流量：3,400m ³ /s（松浦橋）
1976 年	昭和 51 年	・直轄管理区間の区間延長 巖木川 5k400+80～14k600
1979 年	昭和 54 年	・直轄管理区間の改修計画策定
1983 年	昭和 58 年	・駒鳴捷水路 暫定通水
1987 年	昭和 62 年	・巖木ダム 完成
1988 年	昭和 63 年	・松浦川水系工事実施基本計画施行（第 2 回改定） 基本高水のピーク流量：3,800m ³ /s（松浦橋） 計画高水流量：3,400m ³ /s（松浦橋） 横断形・HWL のみ変更
1989 年	平成元年	・直轄河川改修計画（変更）

(2) 改修計画

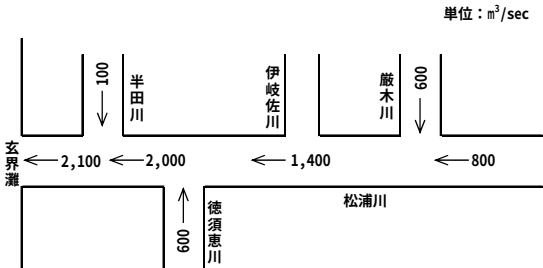
松浦川の改修計画は、昭和 24 年に唐津における計画高水流量を $2,100\text{m}^3/\text{s}$ と決定した。

昭和 36 年に、昭和 28 年 6 月洪水による未曾有の災害に鑑み、直轄改修河川に編入し、昭和 42 年 6 月に松浦橋における計画高水流量を $2,700\text{m}^3/\text{s}$ とした工事実施基本計画を定めたが、昭和 42 年 7 月、昭和 47 年 7 月等の洪水及び近年における流域開発等に鑑み、昭和 50 年に基準地点松浦橋における基本高水のピーク流量を $3,800\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち洪水調節施設により $400\text{m}^3/\text{s}$ を洪水調節して、計画高水流量 $3,400\text{m}^3/\text{s}$ とする工事実施基本計画の改定を行った。

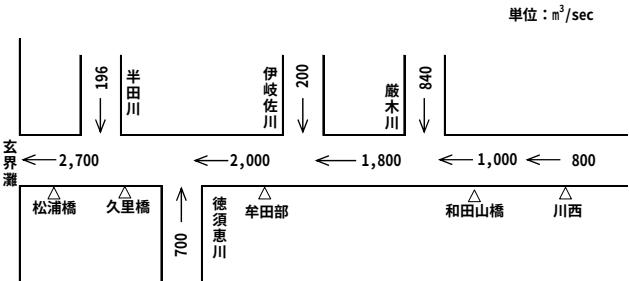
表 4- 3 治水事業の沿革

策定年	昭和 50 年
計画安全度	松浦橋地点 1/100
基本高水ピーク流量	$3,800\text{m}^3/\text{s}$
計画高水流量	$3,400\text{m}^3/\text{s}$
洪水調節施設	$400\text{m}^3/\text{s}$

当初計画
(昭和 24 年)



工事実施基本計画決定
(昭和 42 年)



工事実施基本計画改定
(昭和 50 年)

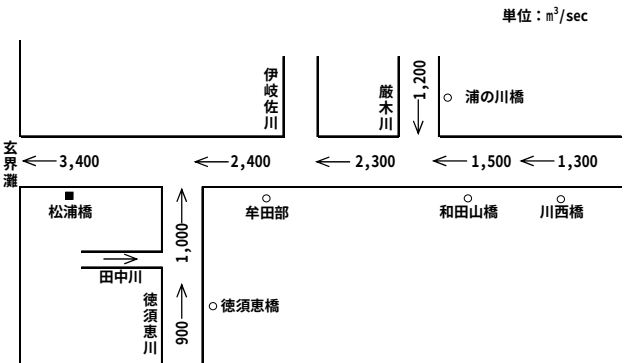


図 4- 1 既定計画の変遷

(3) 堤防の整備状況

松浦川では、現在、洪水の安全な流下を図るべく築堤、河道掘削、護岸整備等を実施している。

松浦川において、完成堤防は左右岸総延長の約 62%である。

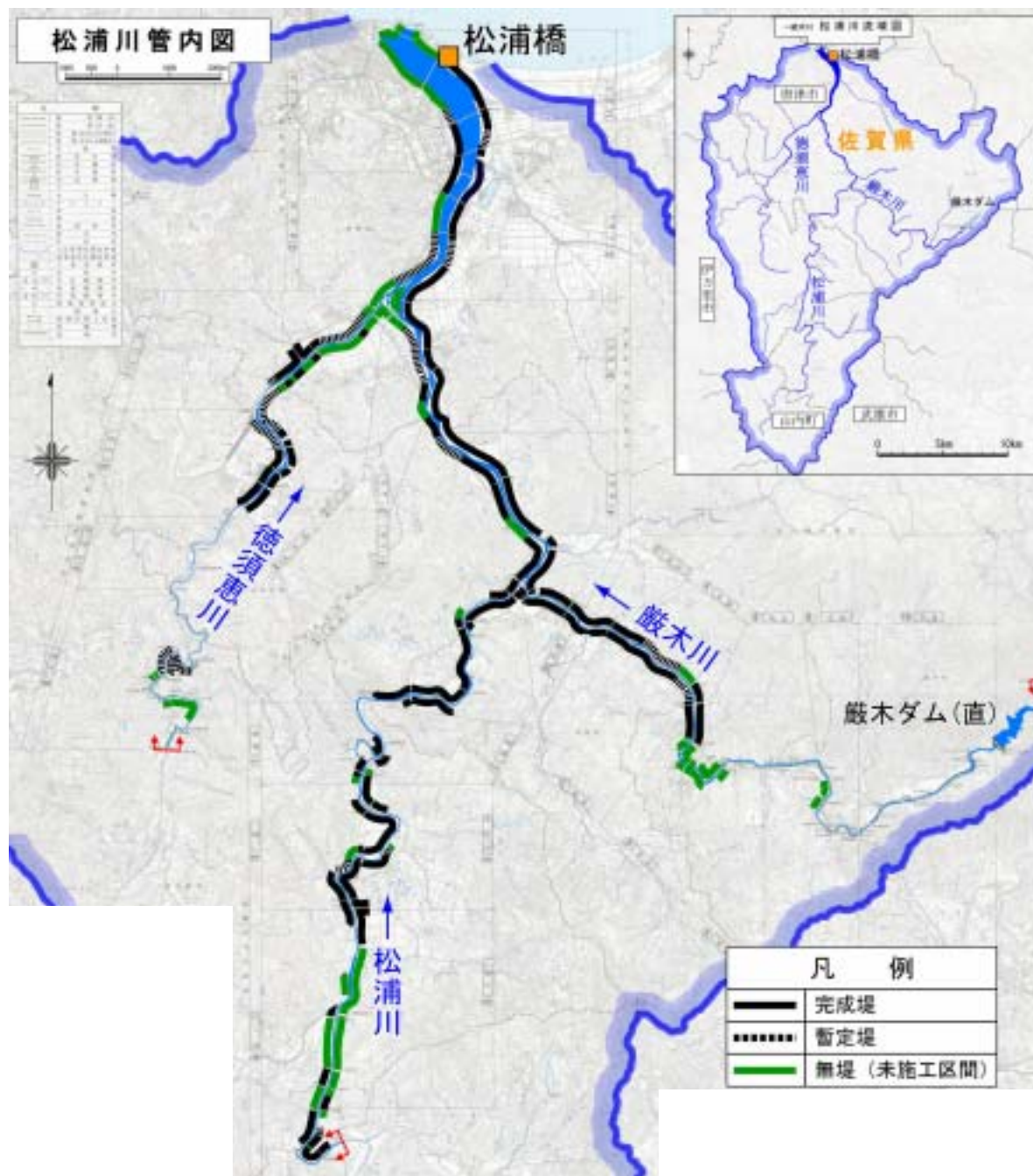


図 4- 2 松浦川の堤防整備状況（平成 17 年 3 月現在）

第5章 水利用の現状

5-1 水利用の現状

河川水の利用については、現在、流域外も含めて農業用水として約 8,700ha の農地でかんがいに利用され、水道用水としては、唐津市、多久市等で、工業用水としては唐津市内で利用されている。また、水力発電としては、厳木川の厳木発電所、厳木第 2 発電所の他、厳木ダムを下ダムとする揚水式の天山発電所により、最大出力約 61 万 kW の電力提供が行われている。牟田部地点から下流の既得水利としては、農業用水 4.2520m³/s、水道用水 0.5900m³/s、工業用水 0.0780m³/s、その他 2.2524m³/s の合計 7.1724m³/s の許可水利があり、このほかにかんがい面積 63ha の慣行水利がある。

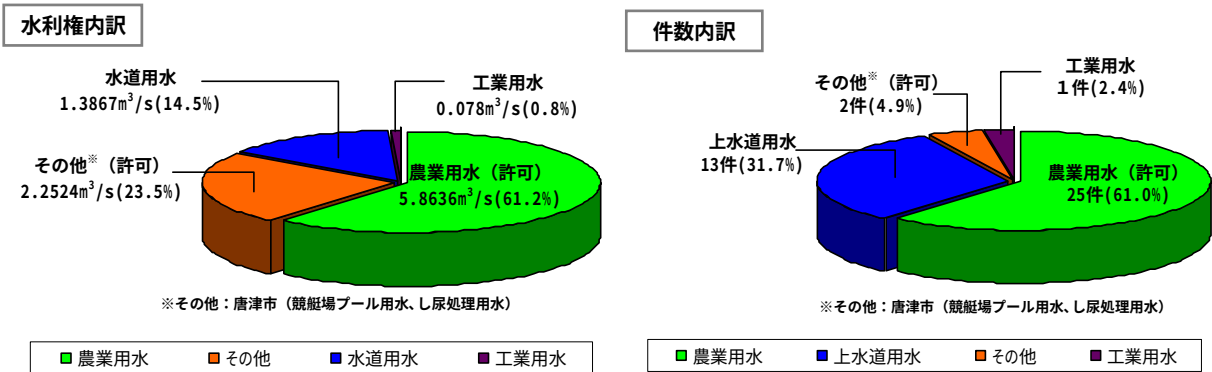


図 5-1 松浦川水系における水利権（発電を除く）

表 5-1 松浦川水系における水利権一覧表

松浦川水系（大臣管理区間+県知事管理区間）				
水利使用目的	件数	水利権量 (m³/s)	かんがい面積 (ha)	備考
農業用水	許可	25	5.8636	5,895.03
	慣行	756	30.1176	2,797.00
	計	781	35.9812	8,692.03
上水道用水	13	1.3867	—	唐津市(2)、伊万里市(2)、武雄市(2)、多久市(1)、相知町※(1)、厳木町※(2)、山内町(1)、北波多村※(1)
工業用水	1	0.0780	—	唐津市
発電用水	3	145.8400	—	発電最大出力60万8千kw
その他	許可	2	2.2524	唐津市（競艇場プール用水、し尿処理用水）
	慣行	12	—	雑用水
	計	14	2.2524	—
合計	812	185.5383	8,692.03	

※相知町、厳木町、北波多村は合併（H17.1.1）により現在は唐津市

松浦川水系（直轄管理区間）				
水利使用目的	件数	水利権量 (m³/s)	かんがい面積 (ha)	備考
農業用水	許可	25	5.8636	5,895.03
	慣行	34	1.8187	492.35
	計	59	7.6823	6,387.38
上水道用水	8	0.7867	—	唐津市(2)、伊万里市(2)、相知町※(1)、厳木町※(2)、北波多村※(1)
工業用水	1	0.0780	—	唐津市
発電用水	0	—	—	
その他（許可）	2	2.2524	—	唐津市（競艇場プール用水、し尿処理用水）
合計	70	10.7994	6,387.38	



5-2 渇水被害の概要

松浦川水系における渇水被害は、昭和30年代、40年代に多発している、

佐賀県北西部では、水枯れを起こしやすく、これらの渇水被害を背景として、治水と利水を目的としたダムが建設されてきた。特に、上場^{うわばだいち}台地は被害が大きく、松浦川からの取水とダム開発を行ってきた。

近年では、平成6年の渇水があげられ、^{きゅうらぎ}厳木ダムの不特定用水から緊急放流を行った。

表 5-2 佐賀県における渇水被害状況の経緯（佐賀県災異誌）

年	月	記事	被害の 程度※	適用
昭和30年	8月	干ばつ	—	佐賀県全般
昭和31年	7～8月	干ばつ	—	佐賀県全般
昭和32年	1月	干ばつ	—	佐賀県全般
昭和33年	7～8月	干ばつ	—	佐賀県全般
昭和34年	6月	干ばつ	—	佐賀県全般
昭和34年	9月	干ばつ	—	佐賀県西部
昭和35年	8月	干ばつ	—	佐賀県全般
昭和36年	7月	干ばつ	—	上場地方
昭和39年	6月	干ばつ	小	佐賀県全般
昭和39年	7～8月	干ばつ	大	佐賀県全般
昭和39年	8～9月	干ばつ	中	佐賀県全般、特に東松浦郡上場地方
昭和40年	2～4月	干ばつ	小	東松浦郡上場地方
昭和41年	7～8月	干ばつ	中	佐賀県全般
昭和41年	8～9月	干ばつ	大	佐賀県全般
昭和42年	5～6月	干ばつ	中	佐賀県全般
昭和42年	8～10月	干ばつ	大	佐賀県全般
昭和43年	3～6月	干ばつ	小	佐賀県全般、特に県北西部伊万里市、多久市
昭和43年	8～9月	干ばつ	小	伊万里市、武雄市、呼子町
昭和44年	8～9月	干ばつ	中	佐賀県全般、特に県北西部
昭和44～45年	12～1月	干ばつ	小	佐賀県全般
昭和46年	4～5月	干ばつ	小	佐賀県全般、特に東松浦郡上場地方、伊万里市
昭和46年	9～12月	干ばつ	小	佐賀県全般、杵島郡山内町、伊万里市、山代町
昭和53年	4月、5月、6月	小雨、渇水	—	佐賀県北部、西部
昭和53年	7月～9月	干ばつ	小	佐賀県全域
昭和57年	6月～7月	干ばつ	小	佐賀県各地
昭和59年	7～8月	干ばつ	小	上場地方を中心に県内各地
平成2年	7～8月	干ばつ・猛暑	小	県内各地
平成6年	6～8月	干ばつ	大	佐賀県全域

【主な渇水の状況】

(1)昭和 30 年代

昭和 37 年と 38 年の 2 ヶ年を除いて、毎年県全域で干ばつの被害が発生しており、昭和 36 年に上場地方での被害が報告されている。

(2)昭和 40 年代

昭和 47 年～49 年の 3 ヶ年を除いて、毎年県全域で干ばつの被害が発生している。

①昭和 43 年

伊万里市や多久市、武雄市等で農作物の被害が発生した。

②昭和 44 年

特に松浦川流域が位置する県北西部で干ばつの被害が多く発生した。

③昭和 46 年

特に上場地方や伊万里市、山内町で干ばつの被害が多く発生した。

(3)昭和 50 年代～昭和 60 年代

昭和 53 年、57 年、59 年に県内各地で干ばつの被害が発生している、

①昭和 53 年

松浦川流域が位置する県北西部で干ばつの被害が発生している。

②昭和 57 年

県内各地で干ばつの被害が発生している。唐津市は給水制限を実施（一次）し、松浦川流域の塩害を防止するため松浦大堰魚道の閉門操作の要請を行った。

③昭和 59 年

上場地方を中心として県内各地で干ばつの被害が発生している。

唐津市、厳木町、相知町では、かんがい用水の不足により、黒乾（281ha）、白乾（20ha）、枯死（1ha）が発生している。節水の呼びかけ等が行われたが、給水制限は実施されていない。

(4)平成元年～

昭和 30 年代と 40 年代と比較し、渇水の発生頻度は低下しており、最近年では平成 6 年に発生している。

①平成 2 年

県内各地で干ばつの被害が発生している。

②平成 6 年

【平成 6 年～7 年 渇水の記録 佐賀県より引用】

平成 6 年 7 月になると松浦川の流況及び水質の悪化が進んできたことから、8 月 10 日に松浦川水系渇水対策協議会の設立総会を開催し、渇水対策として節水 PR の継続及び強化と同時に、農業用水及び河川維持用水として厳木ダムの不特定用水から日量 1 万 7 千 m^3 の補給を行った。

また、松浦川上流の大川地区等では河川流量の減少に伴い水稻被害が生じ、地元農協等から本部ダムの緊急放流の陳情があり、土木事務所では 8 月 25 日に本部ダム関連渇水対策連絡調整会議を開催し、2 日間にわたり農業用水として 3 万 m^3 の緊急放流を実施した。

さらに、9 月 2 日に第 2 回協議会を開催し、厳木ダムの不特定用水を日量 1 万 1 千 m^3 補給したほか、厳木町から多久市、武雄市から山内町への給水支援を実施した。

なお、筑後川水系、嘉瀬川水系などでは、上記渇水年以外に平成元年、昭和 60 年、54 年、53 年、52 年と度々渇水に見舞われているが、松浦川水系では、これらの年に給水制限などの渇水対策が行われた記録はない。

【松浦川での渇水被害状況】

【佐賀新聞】昭和42年



第6章 河川流況と水質

6-1 河川流況

牟田部地点における昭和34年から平成15年までの過去45年間の流況は、平均低水流量 $3.52\text{m}^3/\text{s}$ 、平均渇水流量 $2.07\text{m}^3/\text{s}$ 、1/10渇水流量 $0.99\text{m}^3/\text{s}$ である。

表 6-1 牟田部地点の流況表

(単位： m^3/s)

	松浦川	観測所名	牟田部	流域面積 (km^2)	275.0	備考
	豊水 (95日)	平水 (185日)	低水 (275日)	渇水 (355日)	年平均	
1958年(昭和33年)	—	—	—	—	—	
1959年(昭和34年)	9.40	4.60	2.80	1.40	11.94	
1960年(昭和35年)	7.00	3.10	2.00	1.40	9.90	
1961年(昭和36年)	9.00	5.60	3.90	2.60	10.60	
1962年(昭和37年)	10.00	3.00	2.20	1.50	13.72	
1963年(昭和38年)	14.60	9.40	6.70	3.90	17.50	
1964年(昭和39年)	9.60	6.40	3.70	1.50	9.10	
1965年(昭和40年)	7.70	5.40	3.00	1.80	11.00	
1966年(昭和41年)	8.11	5.38	4.27	1.58	8.92	
1967年(昭和42年)	9.11	4.92	3.32	2.09	11.68	
1968年(昭和43年)	7.94	4.54	2.44	0.88 ^②	8.62	
1969年(昭和44年)	8.86	5.19	3.05	0.67 ^①	12.86	
1970年(昭和45年)	11.28	5.45	2.58	0.90 ^③	10.78	
1971年(昭和46年)	10.18	5.42	3.47	2.76	11.98	
1972年(昭和47年)	17.44	9.73	7.13	4.82	19.09	
1973年(昭和48年)	7.14	5.42	4.43	2.28	10.84	
1974年(昭和49年)	7.80	4.78	3.96	3.27	9.73	
1975年(昭和50年)	7.71	4.66	3.92	2.67	9.03	
1976年(昭和51年)	11.81	6.42	4.70	2.60	14.19	
1977年(昭和52年)	9.02	3.77	2.72	1.53	9.86	
1978年(昭和53年)	3.76	2.77	2.30	1.15	5.53	昭和53年渇水
1979年(昭和54年)	12.96	6.64	3.72	1.81	14.88	
1980年(昭和55年)	18.26	9.23	6.34	4.31	22.97	
1981年(昭和56年)	9.81	6.59	5.14	3.38	11.98	
1982年(昭和57年)	9.02	5.35	3.98	1.97	15.46	
1983年(昭和58年)	14.75	7.89	3.92	2.72	16.47	
1984年(昭和59年)	5.23	3.00	2.33	1.63	6.71	
1985年(昭和60年)	11.68	5.55	3.69	2.00	17.52	
1986年(昭和61年)	7.88	4.40	3.19	1.57	14.53	
1987年(昭和62年)	—	—	—	—	—	
1988年(昭和63年)	8.60	4.87	2.53	1.56	9.85	
1989年(平成1年)	8.92	4.72	3.16	2.12	11.35	
1990年(平成2年)	8.38	5.26	3.53	2.47	12.26	
1991年(平成3年)	17.16	8.75	4.54	2.22	21.00	
1992年(平成4年)	10.64	5.81	3.76	2.44	11.56	
1993年(平成5年)	15.40	6.22	4.04	2.35	18.76	
1994年(平成6年)	5.09	3.91	1.82	0.99 ^④	5.66	平成6年渇水(4位/44年)
1995年(平成7年)	7.23	3.75	2.29	1.26	10.72	
1996年(平成8年)	6.12	3.70	2.38	1.68	8.14	
1997年(平成9年)	11.68	5.10	3.20	1.91	17.98	
1998年(平成10年)	11.19	6.22	3.49	1.61	13.22	
1999年(平成11年)	10.32	4.71	2.37	1.32	14.63	
2000年(平成12年)	6.85	4.35	2.45	1.73	7.84	
2001年(平成13年)	8.56	5.06	2.97	1.63	12.25	
2002年(平成14年)	8.19	5.08	3.62	2.14	9.68	
2003年(平成15年)	13.19	5.84	3.86	2.74	13.17	
最大	18.26	9.73	7.13	4.82	22.97	対象期間 : 1959～2003
最小	3.76	2.77	1.82	0.67	5.53	
平均	9.88	5.41	3.52	2.07	12.40	
1/10流量 (比流量： $\text{m}^3/\text{s}/100\text{km}^2$)	6.12 (2.23)	3.10 (1.13)	2.29 (0.83)	0.99 (0.36)	4/44 (2.85)	昭和62年欠測
対象期間	1959～2003 45年間					

(※) 「—」：欠測、または欠測日が多いため流況の算定不可

6-2 河川水質

松浦川の水質汚濁に係わる環境基準の類型指定は、表 6-2 に示すとおりであり、全川で A 類型に指定されている。松浦川の近年の水質は、環境基準値である BOD75%値を満足しており、全川で良好である。久里橋地点については、河川流量が減少した年で、一部水質が環境基準を満足していない傾向にあるが、水質に関する問題は発生していない。

表 6-2 環境基準類型指定の状況

水域の範囲	類型 ^{注1)}	達成期間 ^{注2)}	環境基準地点	指定年月日
松浦川（全域）	A	イ	久保橋（和田山橋）	昭和48年6月1日（佐賀県）
	A	イ	荒瀬橋（牟田部）	昭和48年6月1日（佐賀県）
	A	イ	潮止堰（久里橋）	昭和48年6月1日（佐賀県）
徳須恵川（全域）	A	イ	田中川合流（徳須恵橋）	昭和48年6月1日（佐賀県）
厳木川（全域）	A	イ	山崎橋（浦の川橋）	昭和48年6月1日（佐賀県）

注1) A: BOD濃度 2 mg/l 以下 注2) イ: 直ちに達成

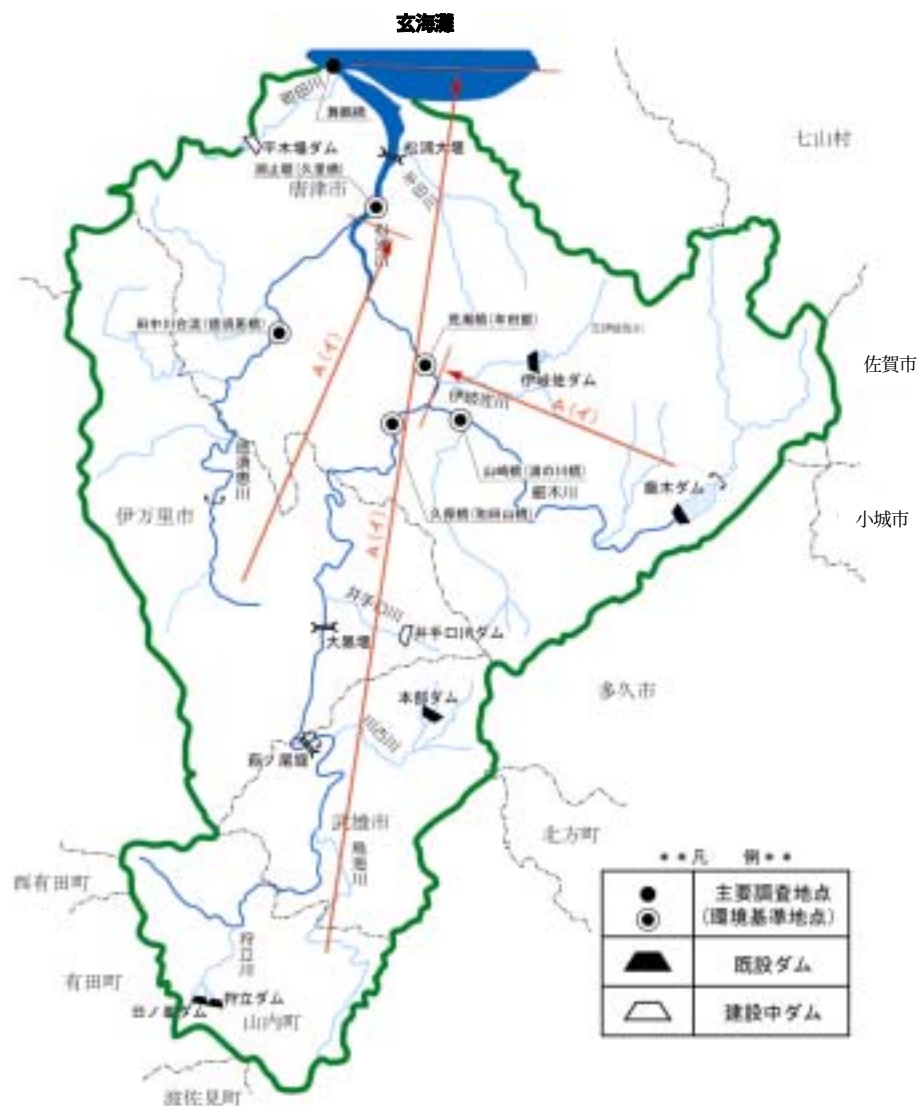
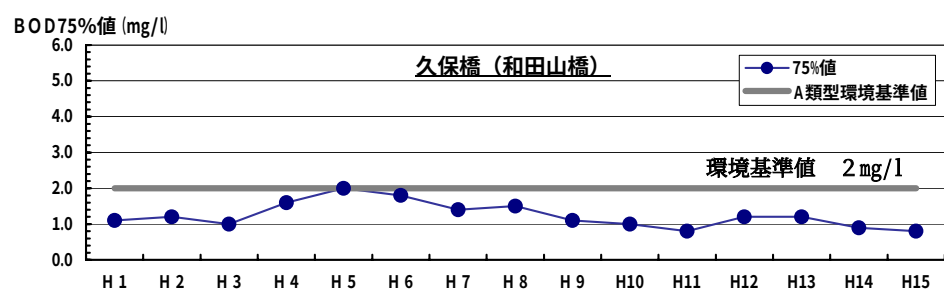
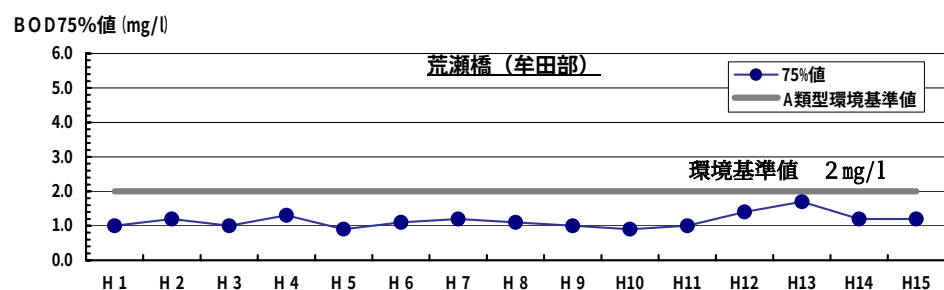
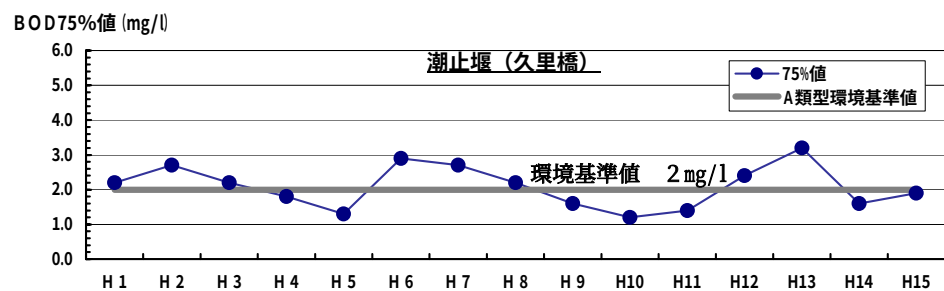
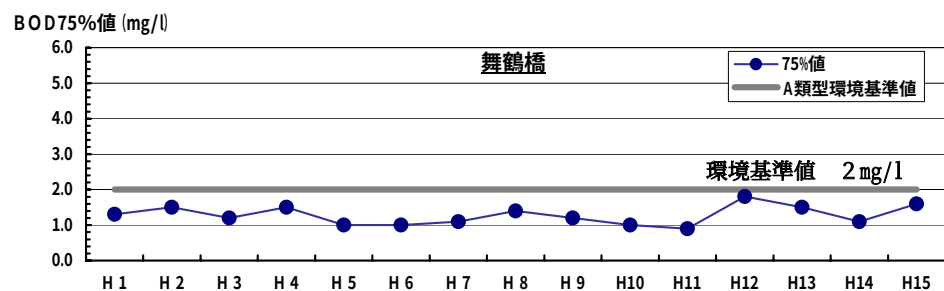
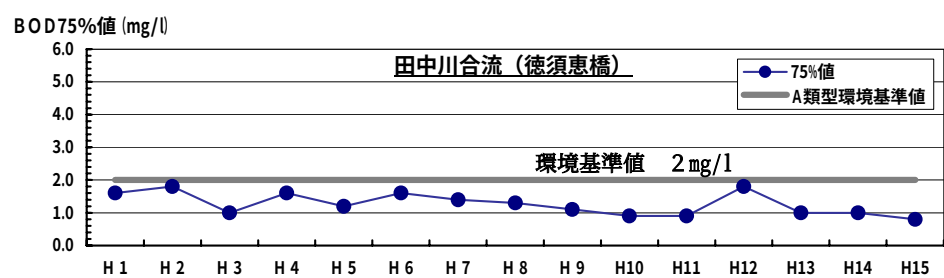


図 6-1 松浦川における環境基準類型指定区分及び水質調査地点位置図

松浦川全域
(A 類型)



徳須恵川全域
(A 類型)



巖木川全域
(A 類型)

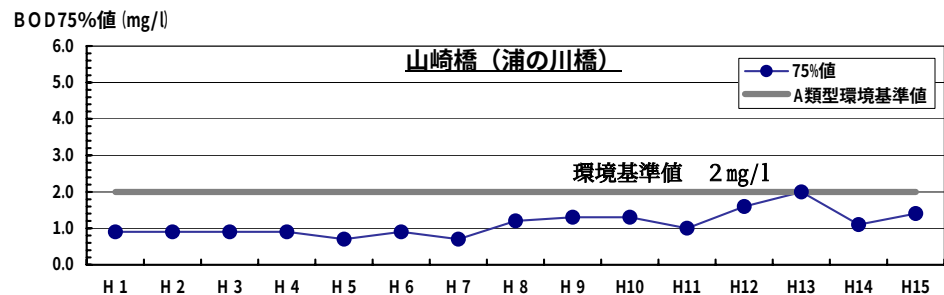


図 6-2 各水質調査地点における水質経年変化

年 (平成)

第7章 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

河川の利用については、観光都市唐津の中心部を貫流し、そこに広がる広大な水面は唐津城とあいまって唐津を代表する景勝空間となっており、唐津市民や観光客に広く愛されている。また、松浦大堰の湛水部では、ボート利用が盛んに行われている。その他、松浦川河畔公園、桃川親水公園、徳須恵川水辺の楽校、相知町桜づつみ、アザメの瀬など松浦川の良い河川空間と一体的な整備がなされている水辺拠点が点在しており、地域住民の憩いの空間として広く利用されている。



図 7- 1 主な河川利用位置図

7-1-1 空間利用状況

松浦川の河川空間利用者数は年間約 8 万人^(注1)であり、沿川の市町村人口^(注2)からみた年間利用回数は一人当たり約 0.8 回となる。利用形態は散策等や釣りが多く、この 2 項目で約 7 割の利用を占めている。

また、利用場所としては堤防から水面まで、ほぼ均等に利用されている。

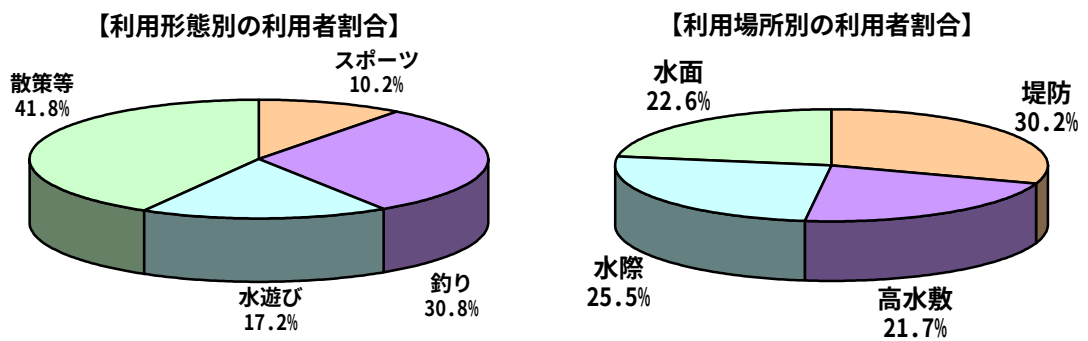
(注 1) H15 年度空間利用実態調査より

(注 2) 沿川の市町村人口は「想定氾濫区域内人口 97,818 人：H7 年度基準河川現況調査」より

表 7- 1 松浦川における年間の河川空間利用状況

区分	項目	年間利用人数 (推定値)(人)	割合(%)
利用形態別	スポーツ	8,404	10.2
	釣り	25,479	30.8
	水遊び	14,276	17.2
	散策等	34,558	41.8
	計	82,717	100.0
利用場所別	堤防	24,993	30.2
	高水敷	17,968	21.7
	水際	21,031	25.5
	水面	18,725	22.6
	計	82,717	100.0

出典：H15年度水辺の国勢調査報告書



年間推定利用人数 82,717 人 (平成 15 年度調査)

図 7- 2 河川利用の割合 (利用形態別と利用場所別)

松浦川の大臣管理区間における高水敷(3号地)面積は約 77.8ha で、スポーツや散策等の利用で、年間約 1 万 8 千人が利用している。(H15 年度河川空間利用実態調査) 高水敷のうち官有地は約 89%を占め、約 11%が民有地となっている。

高水敷は緑地公園や運動公園、サイクリングロードなどの日常利用のほかに、花火大会や各種イベントにも利用されている。またアザメの瀬の氾濫原湿地では、河川環境の学習や研究拠点としての利用等が、幅広く行われている。



図 7- 3 主な高水敷等の利用位置図

7-1-2 内水面漁業権

松浦川の内水面漁業をみると、第5種共同漁業権として、アユ・コイ・ヤマメ・フナ・オイカワ・カワムツ・ウグイの漁が行われている。

表 7- 2 松浦川の内水面漁業権

公示番号	事業名	漁業の名称	事業の期間（月日）		漁場の位置
			開始	終了	
内共第4号	厳木町漁業 協同組合	アユ漁業	6.1	12.31	唐津市厳木町及び相知町の厳木川、杉宇土川、アセゼ川、星領川、天川及び浦川内川の水域
		コイ漁業	1.1	12.31	
		ヤマメ漁業	2.1	9.30	
内共第5号	相知町伊岐佐 漁業共同組合	ヤマメ漁業	2.1	9.30	唐津市相知町内の伊岐佐川及び左伊岐佐川の水域
		アユ漁業	6.1	12.31	
		コイ漁業	1.1	12.31	
		フナ漁業	1.1	12.31	
		オイカワ カワムツ漁業	1.1	12.31	
内共第5号	大川町漁業 協同組合	コイ漁業	1.1	12.31	伊万里市大川町の松浦川の水域
		ウグイ漁業	6.1	3.31	

出典：佐賀県魚政課資料H11.10



図 7- 4 内水面漁業権位置図

第8章 河道特性

松浦川は標高が約 400～500m の山地を源流としており、河床勾配は約 $1/500 \sim 1/10,000$ と比較的緩勾配である。一方、厳木川は、作礼山さくれいざん(標高 887m)、八幡岳はちまんだけ(標高 764m)と比較的高い山地を抱えており、河床勾配は約 $1/50 \sim 1/500$ と急勾配になっている。

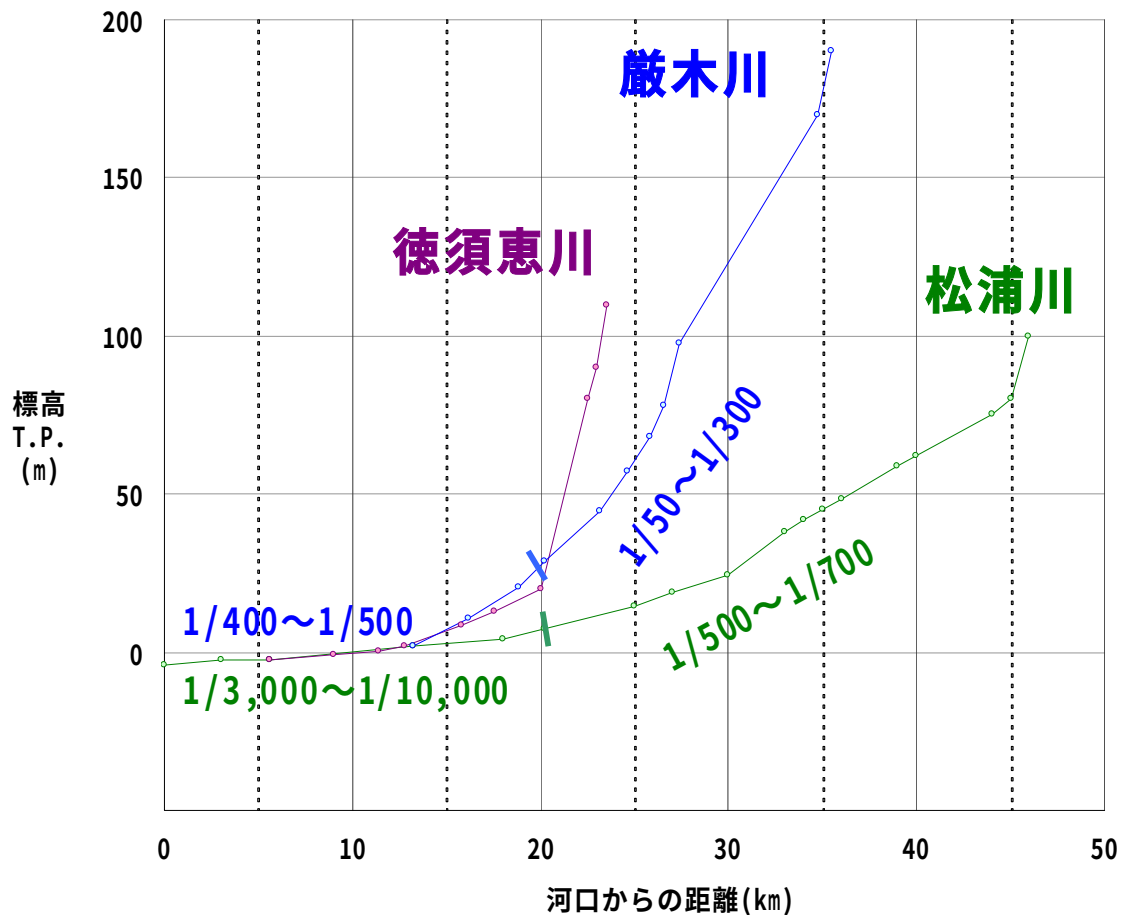


図 8- 1 河床の縦断模式図

8-1 上流部の河道特性【31k4 付近より上流】

青螺山を源に発した松浦川は、山内町・武雄市を貫流し、烏海川などの支川を合わせて伊万里市へ入る。

この区間は山間平地であり、河床は岩河床である。

【烏海川合流点付近の河道の状況】



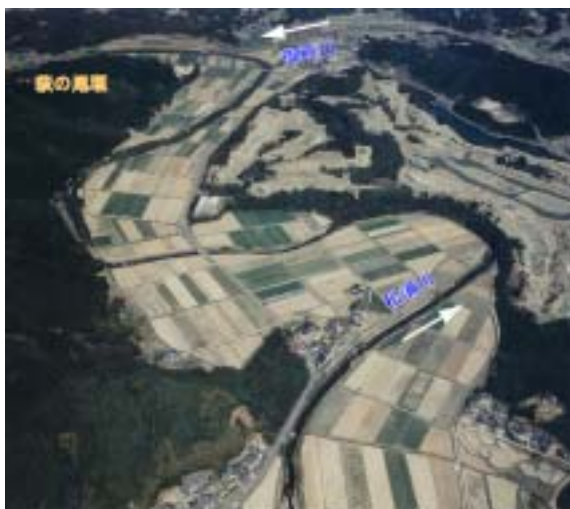
(出典：武雄河川事務所)

【烏海川合流点付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【萩の尾堰より上流の河道の状況】



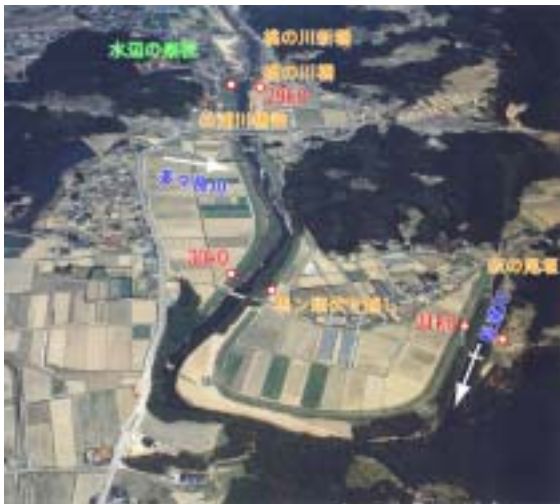
(出典：武雄河川事務所)

8-2 中上流部の河道特性【19k0～31k4 付近】

伊万里市を貫流し、黒尾岳川・井手口川などの支川を合わせ、北上を続ける。

この区間の河床勾配は、1/700～1/500 程度であり、河床は岩河床となっている。

【31k 付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【黒尾岳川合流点付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【25k0 付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【22k0 付近の河道の状況】



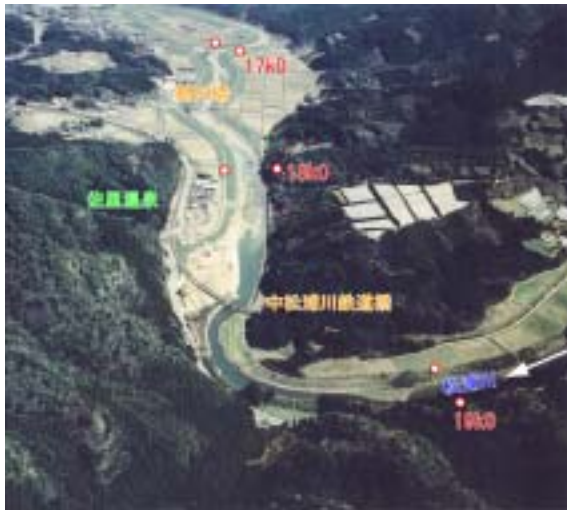
(出典：武雄河川事務所)

8-3 中流部の河道特性【11k0～19k0 付近】

伊万里市の駒鳴地区(山間狭窄部)を抜け、唐津市相知町に入り、厳木川・伊岐佐川などの支川を合わせる。

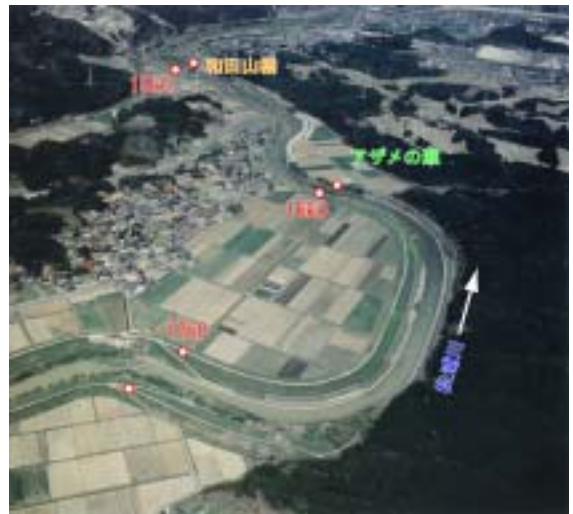
この区間の河床勾配は 1/1,300 程度で、河床の代表粒径は、 $dR=30\text{mm}$ 程度である。(山間狭窄部は岩河床)

【中松浦川鉄道橋付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【アザメの瀬付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【厳木川合流点付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

8-4 下流部の河道特性【3k0～11k0 付近】

下流松浦大堰の湛水区間であり、唐津市相知町を北上し唐津市街地へと貫流する。途中、徳須恵川などの支川を合わせる。

この区間の河床勾配は $1/10,000 \sim 1/1,700$ の緩勾配で、河床の代表粒径は、 $dR=1.2 \sim 5.7\text{mm}$ である。

【11k0 付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【9k0 付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【徳須恵川合流点付近の河道の状況】



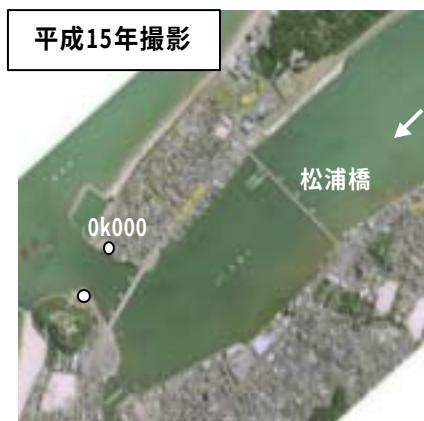
(出典：武雄河川事務所)

8-5 河口部の河道特性【河口～3k0 付近】

松浦大堰下流の汽水域を北上し、半田川など合わせ玄界灘に注ぐ。

河口部は、狭小・屈曲する特異な形状を呈する。狭小部川幅は約 200m に対し、上流側の川幅は約 400m となっている。

河口部は、侵食・堆積を繰り返しながらも干潟等の位置に大きな変化は見られず、概ね安定していると言える。



河口部は、大きな変化はなく、
砂州の発達による河口閉塞もない。



(出典：武雄河川事務所)

8-6 徳須恵川の河道特性【0k0～14k4 付近】

支川徳須恵川は、伊万里市を北上し、途中板治川、行合野川、稗田川、田中川等を含め、唐津市を貫流し、松浦川本川に合流する。

河床勾配は、山間部(稗田川合流点)を境に急変し、下流は $1/5,700 \sim 1/1,800$ 、上流は $1/900 \sim 1/300$ である。河床の代表粒径は、下流は $dR=1.7 \sim 3.6\text{mm}$ で、上流は岩河床である。また、山間部は蛇行が激しい。

【田中川合流点付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【稗田川合流点付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【水留地区(12k0)付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

8-7 厳木川の河道特性【0k0～14k6 付近】

支川厳木川は、周辺山地の溪流を集めて南流し、唐津市旧厳木町下田で天川を合流し、西南西に流れを変え、同町立草で平地部に達し、唐津市相知町で松浦川に合流する。

河床勾配は 1/50～1/500 で、河床の代表粒径は下流約 5km 迄は $dR=45\text{mm}$ 、上流は岩河床である。

【横枕堰付近の河道の状況】



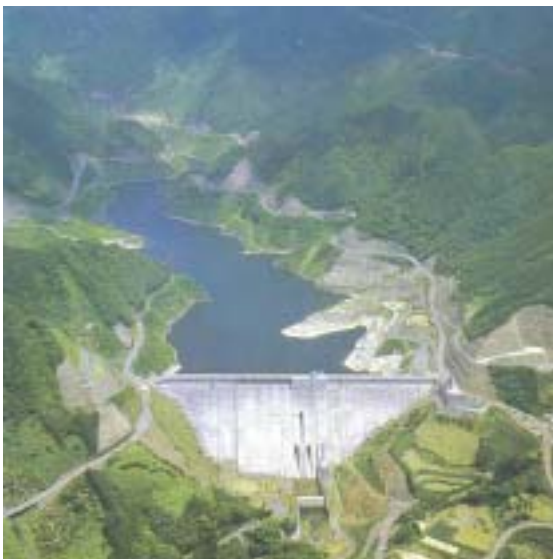
(出典：武雄河川事務所)

【10k0 付近の河道の状況】



(出典：武雄河川事務所)

【厳木ダム】



(出典：武雄河川事務所)

第9章 河川管理の現状

洪水等による災害の発生を防止し、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の保全の観点から日々の河川管理を行っている。松浦川の管理区間および延長は下表のとおりである。

表 9-1 松浦川水系 管理区間延長

管理者	河川名	管理区間延長(km)
国土交通省	松浦川	31.4
	徳須恵川	14.5
	厳木川	17.4
	大臣管理区間合計	63.3
佐賀県	県知事管理区間合計	237.6
合計		300.9

出典：第7回河川現況調査,平成7年度末調査基準

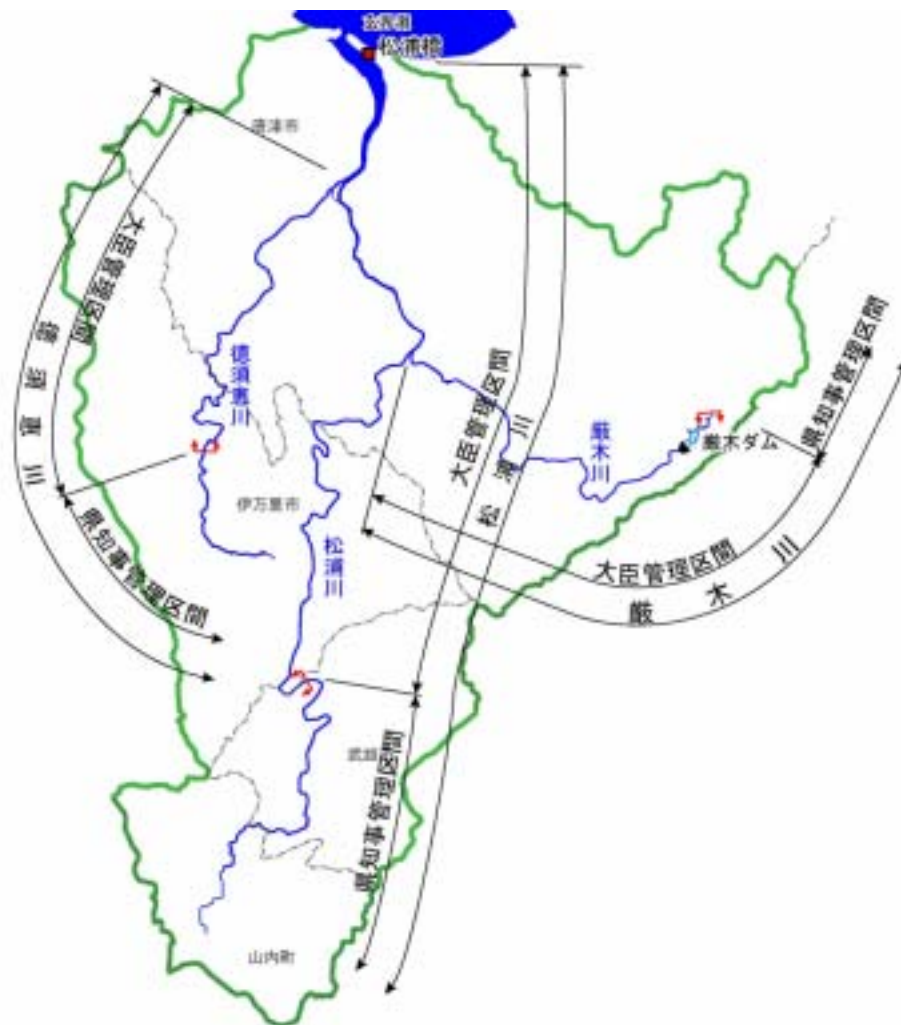


図 9-1 大臣管理区間・県知事管理区間位置図

9-1 河川区域

河川区域面積は下表のようになっている。内訳は低水路が約 56%、堤防敷が約 35%、高水敷約 9%であり、民有地は全体の約 0.9%となっている。

表 9-2 松浦川の管理区間面積

松浦川水系	低水路(1号地)		堤防敷(2号地)		高水敷(3号地)		計	
	官有地	民有地	官有地	民有地	官有地	民有地	官有地	民有地
大臣 管理区間	3,963	0	2,280	0	695	83	6,938	83
県知事 管理区間	2,381	0	1,720	0	165	28	4,266	28
合計	6,344	0	4,000	0	860	111	11,204	111

出典：河川管理統計報告（H17.4.30現在）

9-2 河川管理施設等

河川管理施設は、堤防護岸等の他、樋管・樋門 245 ヶ所、排水機場 4 ヶ所があり、これらの河川管理施設の状況を把握し、適切な処置を講じるため、河川の巡回、点検を行っている。許可工作物は、樋管・樋門 8 ヶ所、橋梁 84 ヶ所にのぼる。各構造物については、河川管理施設同様の維持管理水準を確保するよう、各施設管理者と協議し、適正な維持管理を行うよう指導している。

また、洪水時・高潮などにおいて操作を行う必要がある水門・排水機場等の施設については、的確な操作が実施できるよう操作環境の改善及び操作の動力化を行っている。

表 9-3 松浦川大臣管理区間 堤防整備の状況

大臣管理区間 延長(km)	施行令2条7号 指定区間 (km)	堤防延長(km)					
		完成堤防	暫定堤防	未施工 区間	小計	不要区間	合計
60.5	0.3	48.9	11.0	19.6	79.5	42.4	121.9

出典：直轄河川施設現況調書（H17.3末現在）

表 9-4 河川管理施設等一覧（大臣管理区間）

種別	箇所数		
	河川管理施設	許可工作物	計
水門	2	0	2
樋管・樋門	245	8	253
排水機場	4	0	4
堰	1	0	1
床止め	3	0	3
揚水機場	0	2	2
橋梁	0	84	84
陸閘	0	0	0

① 厳木ダム

厳木ダムは、昭和 62 年 3 月に完成しており、洪水調節や水道・工業用水などを目的とした多目的ダムである。



【厳木ダム本体】



【厳木ダム模式図（標準断面図・容量配分図）】

出典：佐賀県県土づくり本部水資源対策課パンフレット

【厳木ダム諸元表】

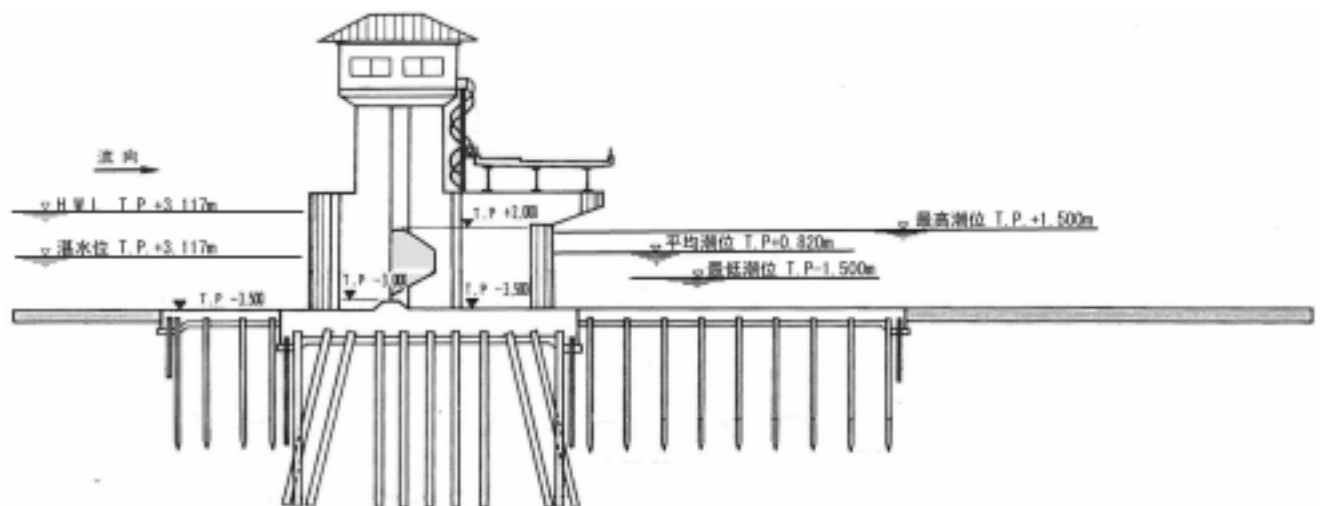
河 川 名	松浦川水系厳木川
位 置	佐賀県唐津市厳木町
集 水 面 積	33.7km ²
形 式	重力式コンクリートダム
堤 高	117m
堤 頂 長	390.4m
堤 体 積	1,088,000m ³
基礎地盤高	EL 105.00m
ダム天端標高	EL 222.00m

② 松浦大堰

松浦大堰は、流下能力増大を図るための河道掘削に伴う塩水遡上による塩害防止を目的として、昭和 49 年 3 月に完成した可動堰である。



【松浦大堰本体】



【松浦大堰標準断面図】（出典：武雄河川事務所パンフレット）

【松浦大堰諸元表】

位 置（左岸） （右岸）	唐津市大土井地先 唐津市原地先
形 式	溢流式鋼製ローラーゲート
堰 長	318.7m（可動堰総延長210.0m）
放流設備	主ゲート5門 （有効高5m、有効経間32m） 調節ゲート1門 （有効高4.9m、有効経間32m） 左右岸に呼水階段式魚道 （幅6.6m×長42.0m）

9-3 水防体制

9-3-1 河川情報の概要

松浦川流域では、雨量観測所及び水位観測所を設置し、無線等により迅速に情報収集を行うとともに、これらのデータを使って河川水位予測を行い、水防活動に活用している。これらの情報を重要な防災情報として、佐賀県や唐津市をはじめとする関係市に提供するとともに、事務所においても、防災情報としてホームページで公表し、地域住民にも提供している。



図 9-2 松浦川流域の雨量・水位観測所位置図

9-3-2 洪水予報

松浦川本川、徳須恵川及び厳木川は、平成9年3月に「洪水予報河川」としての指定を受け、佐賀地方気象台と共同で洪水予報を実施している。松浦川本川の牟田部・川西橋、徳須恵川の徳須恵橋、厳木川のなかしまばしにおける水位の状況・水位予測や流域の雨量の状況・予測等をマスコミを通じて一般住民に分かりやすく迅速に情報提供している。

9-3-3 水防警報

松浦川には水防警報対象観測所が牟田部・川西橋・徳須恵橋・中島橋の4箇所設置されており、洪水により災害が起こる恐れがある場合に、水防警報対象水位観測所の水位をもとに、水防管理団体（唐津市・伊万里市）に対し、河川の巡視や災害の発生防止のための水防活動が迅速・的確に行われるように水防警報を通知している。

9-4 危機管理の取り組み

9-4-1 水防関係団体との連携

松浦川における水害を防止又は軽減するために、水防関係団体に働きかけ水防資材の備蓄や水防関係団体との水防訓練、重要水防箇所の巡視・点検を実施する合同巡視を行っている。また、災害関連情報の提供などのソフト対策を流域一体（国や県の連携）となって松浦圏域総合流域防災協議会を平成17年5月から実施している。

9-4-2 水質事故防止の実施

松浦川における近年の水質事故の発生状況は、下表のとおりである。事故による油等の流出などの水質事故がしばしば発生している。

表 9-5 近年の水質事故発生件数

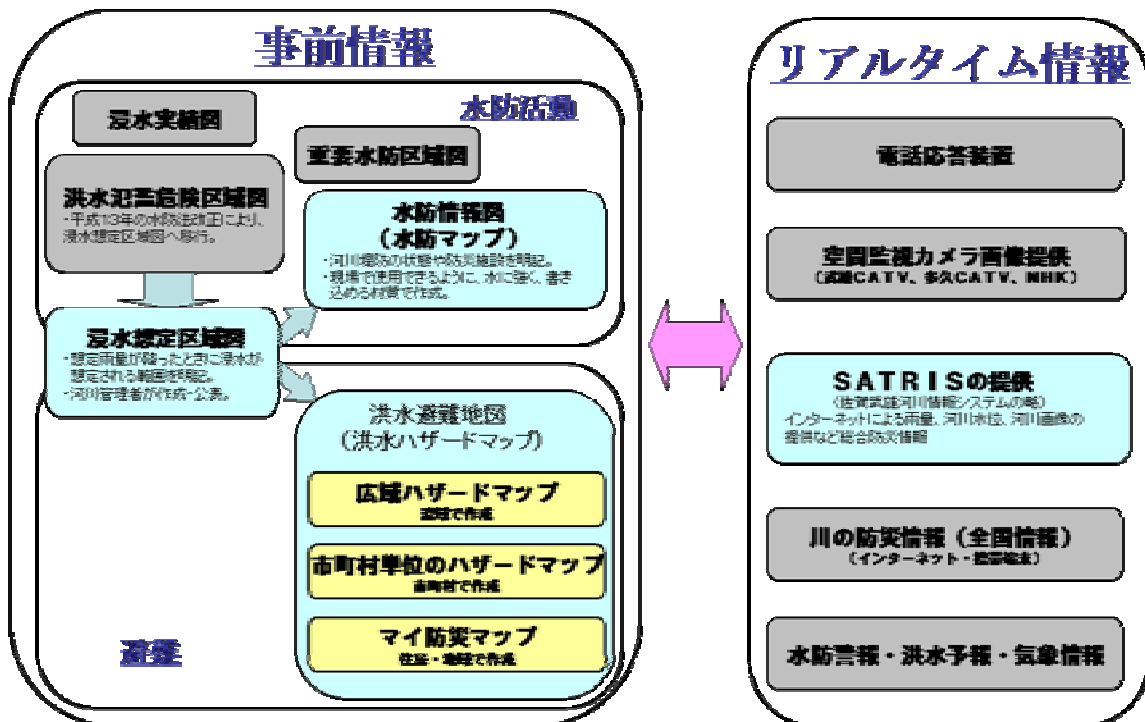
事故発生年	発生件数	事故発生年	発生件数
平成9年	4	平成13年	6
平成10年	2	平成14年	6
平成11年	0	平成15年	2
平成12年	6	平成16年	8
合計		34	

※上記の水質事故発生件数は、唐津・東松浦地区等環境保全対策協議会事務所に報告されているものである。

松浦川では、河川及び水路に関わる水質汚濁対策に関する各関係機関相互の連絡調整を図ることを目的に、佐賀県内にある嘉瀬川・六角川とともに「唐津・東松浦地区等環境保全対策協議会」を設置し、水質の監視や水質事故防止に努めている。協議会は、国・県・流域市で構成され、水質汚濁に関する情報の連絡、調整及び水質汚濁防止のための啓発運動を行っている。

9-4-3 洪水危機管理への取り組み

松浦川においては、防災情報の活用として、リアルタイム情報と平常時の事前情報を組み合わせて、水防活動や警戒避難行動に役立てることとしている。



○リアルタイム情報

水防警報や洪水予報等水防活動や避難に資するリアルタイム情報を提供している。また、国土交通省武雄河川事務所では、ホームページにSATRIS（サトリス）※を開設し、地域住民に分かりやすい情報を提供している。

※SATRISとは、武雄河川事務所が配信する川の防災情報システムで、河川の状況をカメラ映像、雨量、堤防高が地域住民がよく知っている建物の地盤の高さと比較出来る水位が同一画面で見ることが出来るシステムである。



図 9-3 防災インフォメーション

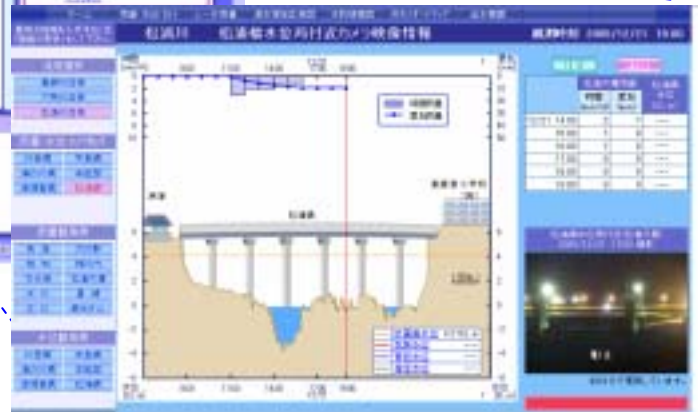


図 9-4 SATRIS (サトリス)

(出典) 武雄河川事務所ホームページ

○事前情報

日頃から水害に備える事前情報として、浸水想定区域図やそれをもとに作成する水防情報図や洪水ハザードマップがある。水防情報図は、水防管理者（市町村）・水防団の活動に役に立つ情報を載せた地図で、第1次松浦川水系洪水避難地図は、平成17年11月に松浦川広域ハザードマップを松浦川改修促進期成会と共同で作成している。

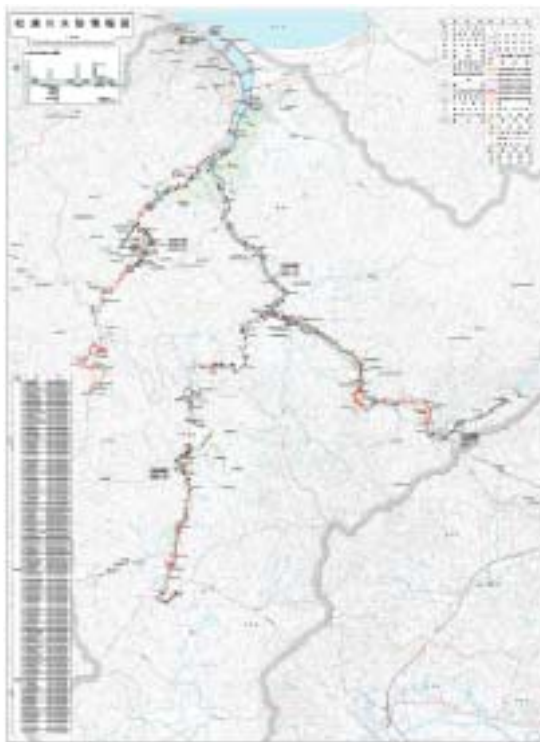


図 9-5 松浦川水防情報図
(出典) 武雄河川事務所

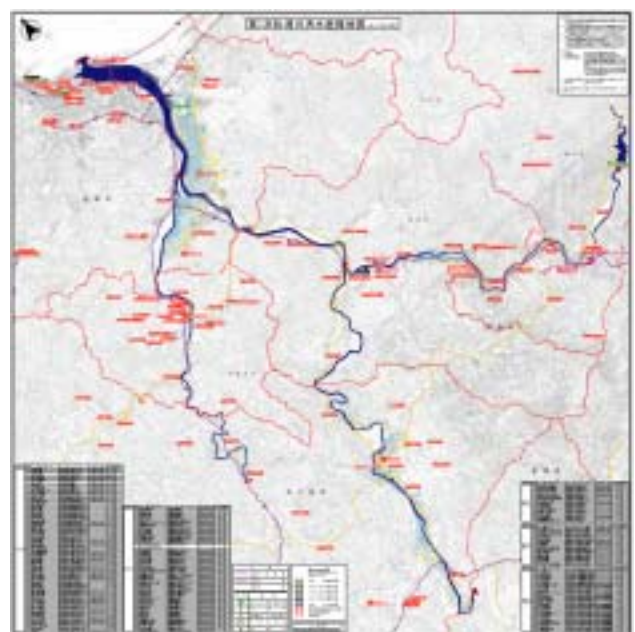


図 9-6 第1次松浦川水系洪水避難地図
(出典) 武雄河川事務所・松浦川改修促進期成会

第10章 地域との連携

10-1 地域連携を巡る動き

河川を基軸とした地域づくり・まちづくりや河川をフィールドとした地域活動及びこれによる人材育成が官民協働で活発に行われており、平成17年1月の市町村合併により、更に交流が盛んになってきている。

10-2 地域連携における現在の取り組み

松浦川が有する風光明媚で自然豊かな河川環境を利用して、地域づくりや環境学習、イベント等が盛んに行われている。

このため、松浦川の河川清掃や環境学習・イベント等の地域住民の自主的な活動に対しては、年齢を問わず安全に多数の地域住民が参加できるよう、また、情報を共有できるように、これらの活動に必要となる河川情報を提供する等の支援を行っている。

【環境学習・清掃活動】



松浦川においては多くの住民団体が環境学習及び河川愛護の啓発活動の一環として、河川の生物調査や清掃・美化活動を行っている。

【アザメの会活動】



松浦川中流部で行われている「アザメの瀬自然再生事業」を軸に、川と人とのつながりを次世代に引き継ぐことを目的として、「イダ嵐」「堤がえし」等の風習など、学習活動を行っている。

【厳木アユ祭り】



厳木川の上流において、水遊びを通じて、河川環境美化や水資源保護の意識高揚を目的として開催される。

【松浦川ゴミマップ及びホットニュース】



松浦川における、情報発信手段のひとつとして「武雄河川事務所ホットニュース」を作成し、地元住民や道の駅等で配布している。

10-3 地域連携における今後の取り組み

松浦川における広域的な活動拠点のネットワークを形成し、地域間の交流や利活用を促進することを目標に、地域の魅力と活力を引き出す積極的な河川管理を行う。そのため、河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災学習、河川の利用に関する安全教育、環境教育などの充実を図るとともに、住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を更に推進する。また、観光都市唐津の観光拠点としての利用や、ボートなどスポーツ・レジャーとしての利用、またアザメの瀬など学習空間としての利用など、これらの水辺拠点の保全・整備を図り、地域間の交流・利活用を促進することで人と川のつながりを再構築に努める。